

悪魔

なんかに

負けない

だって

天使

だもん!

絶対
ついに
やで!!

うふふ...
勝てるかしら?

作切傷甲



「こんにちは！私リエル！最近この辺りで怪しい悪魔が目撃されているらしいの！」

「私が調査をしてやっつけなきゃ！」

「一体誰に向かって話してるんや……」

「おっ誰かあるで！」

「早速聞き込みに行きましょう！」

ふふ

ふふ

「こんにちは！私リエル！この辺りで怪しい悪魔を見かけませんか？」

「教えてくれ方々リエルとっても嬉しい！」

ふふ



「天使にこの様な真似
神の裁きが下りますよ!」

「うふふ
強がっちゃって」

「ワイが助けを
連れて来るまで
耐えるんやで!」

「私は悪魔なんか
負けません!」

「その威勢
いつまで
もつかしら?」

「バチッ!」

「!!!」





「気持ち良くて……
おかしくなっちゃう♡」

「ああんっ♡
いやんっ♡
ああんっ♡
いやあんっ♡」

めろん

びしょ

あ

びしょ



「どあ？
私の仲間に
なりたくならない？」

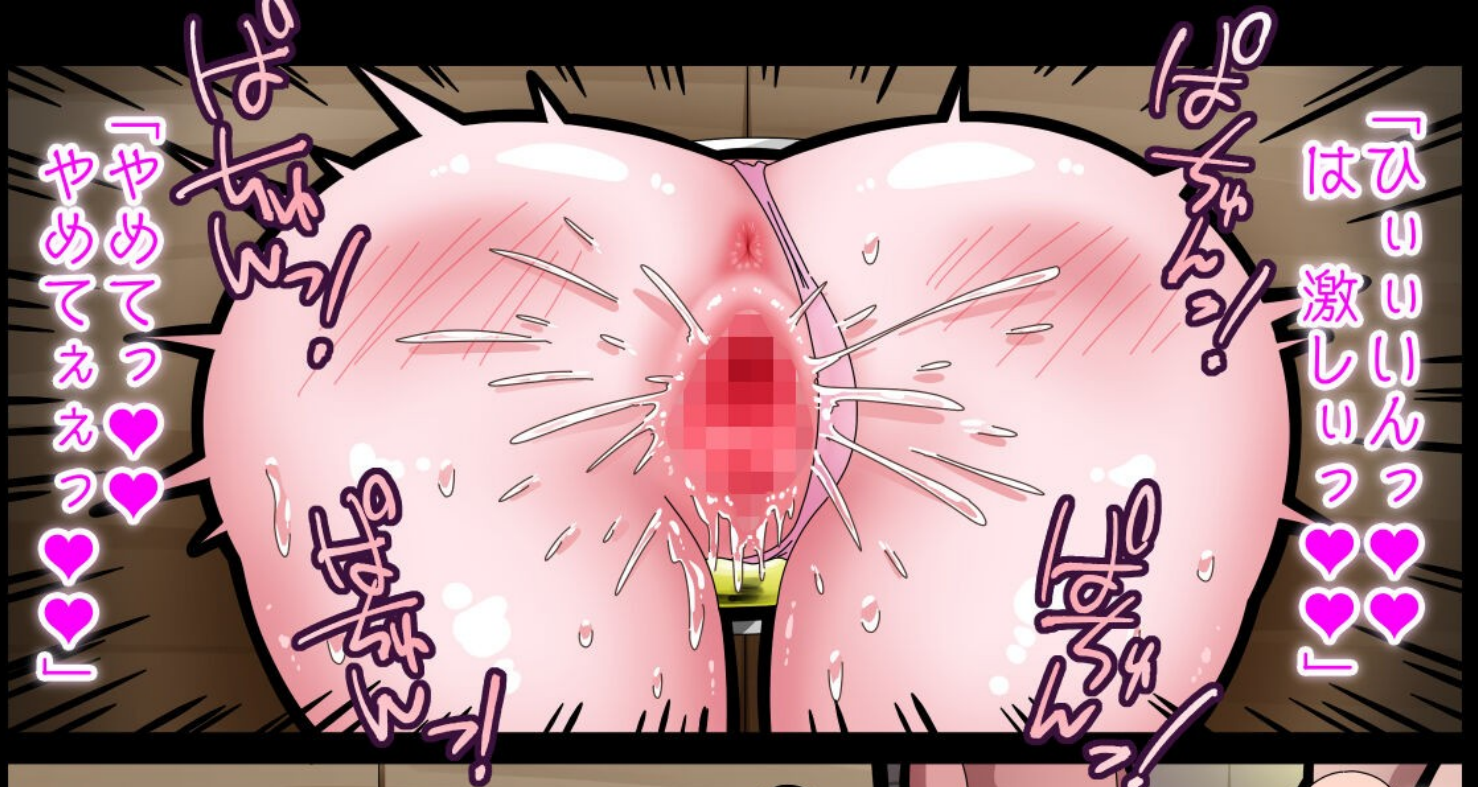
「はあ♡ はあ♡
だ誰が仲間に
なるもんですか……」

「あらそう
じゃあもっ
と楽しんで
あげて♡」

「あう……
これ以上は
本当に壊れ
ちゃうよあ……」

あー

びしょ



「ひい
いいんっ
は
激しいっ
っ
♡♡♡

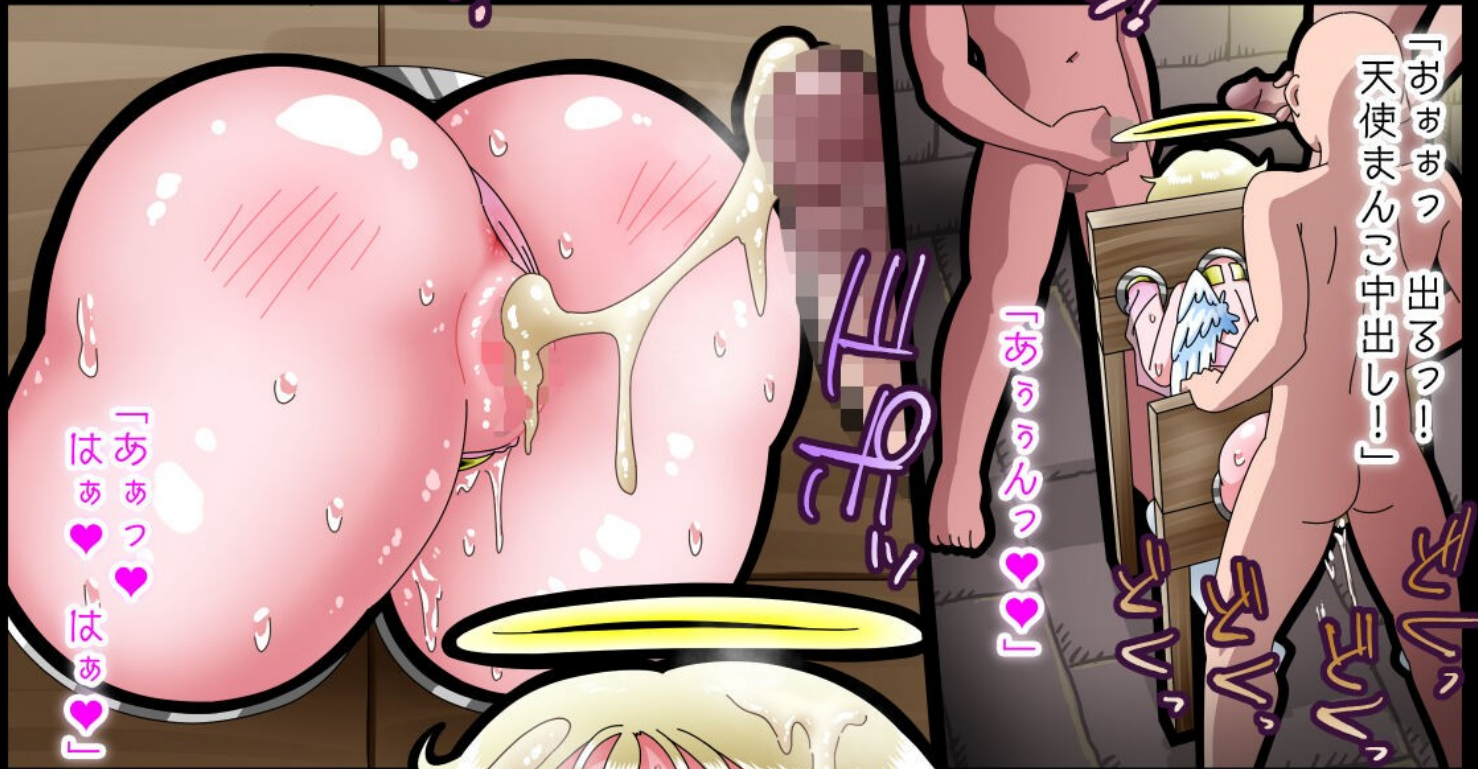
「やめてっ
♡♡♡
やめてええっ
♡♡♡

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ



「おおおっ
出るっ!
天使まんこ中出し!

「あううんっ♡♡♡

「ああっ
♡♡♡
はあ
♡♡♡

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ



「俺の臭い
染みつかせて
やるぜ!

「あう
あうう
やらああ……」

「えっろい顔
しゃがってよ!

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

「中々しげとい
わねえ……」

「はぁ♡ はぁ♡
あ♡ 当り前ですっ♡
神に仕える者は
これしきの事で
くじけたりしませんっ♡」

「……のワリには
楽しんでやってる
みちいじゃない♡」



「えっ!?!
まっ!?!
まっ!?!
それ……」



「ま
でも流石に
コレは耐えられる
かしら……?」

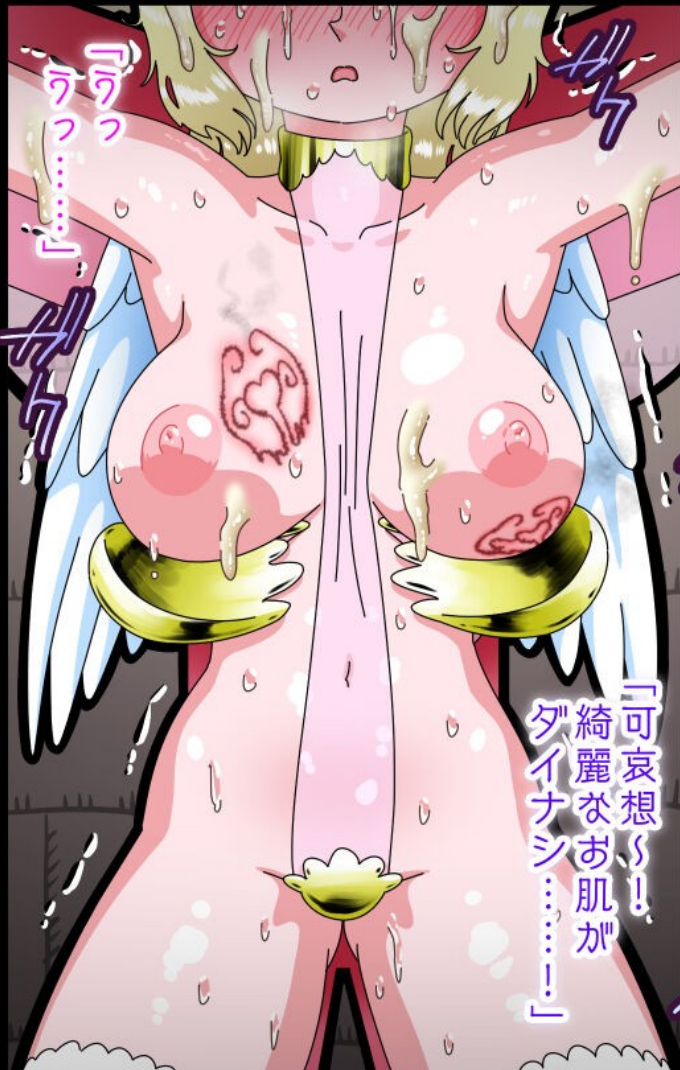




「そうよ♡
おっぱいに
押し当てる
あげる♡」

「ぎゃああああああっ!!」

グウ
グウ
グウ
グウ



「うっ
うっ……」

「可哀想!!
綺麗なお肌が
ダイナシ……!!」



「ほら
こっちも!!」

「あっ!! あっ!!
あぐらううっ!!」

グウ
グウ



「ふうっ
負けないうっ
負けないうっ!!」

「まあ天使ちゃん
私と楽しみ
ましよう……♡」

「……け……
汚らわしい！」

「うふふ♡
その威勢がいつまで
保つかしらね♡」

「えっ!？」

「女の子の身体に
おちんちん!？」

「うふふふふ♡
悪魔の力は
何でもアリなの♡」

「あ
あ
あ……
そんな……」

あ
あ
あ

「おっ♡おっ♡
んおおおっ♡♡♡」

「どう？
女の子に犯される
気持ちは……？」

「ここが気持ち良いのか
私には全部わかるのよ♡」

「Ino Room」

ぬちゃっ
ぬちゃっ

ぬちゃっ
ぬちゃっ

「あっ あがっ
あぐっ……」

「ホラホラ！
言いなさい！
ここが気持ち
良いんでしょ!？」

「あぁっ！
だ 駄目っ！」

「こっやっって首を
締められると
キュンキュン
しちゃうん
でしよう!？」

ぬちゃっ
ぬちゃっ

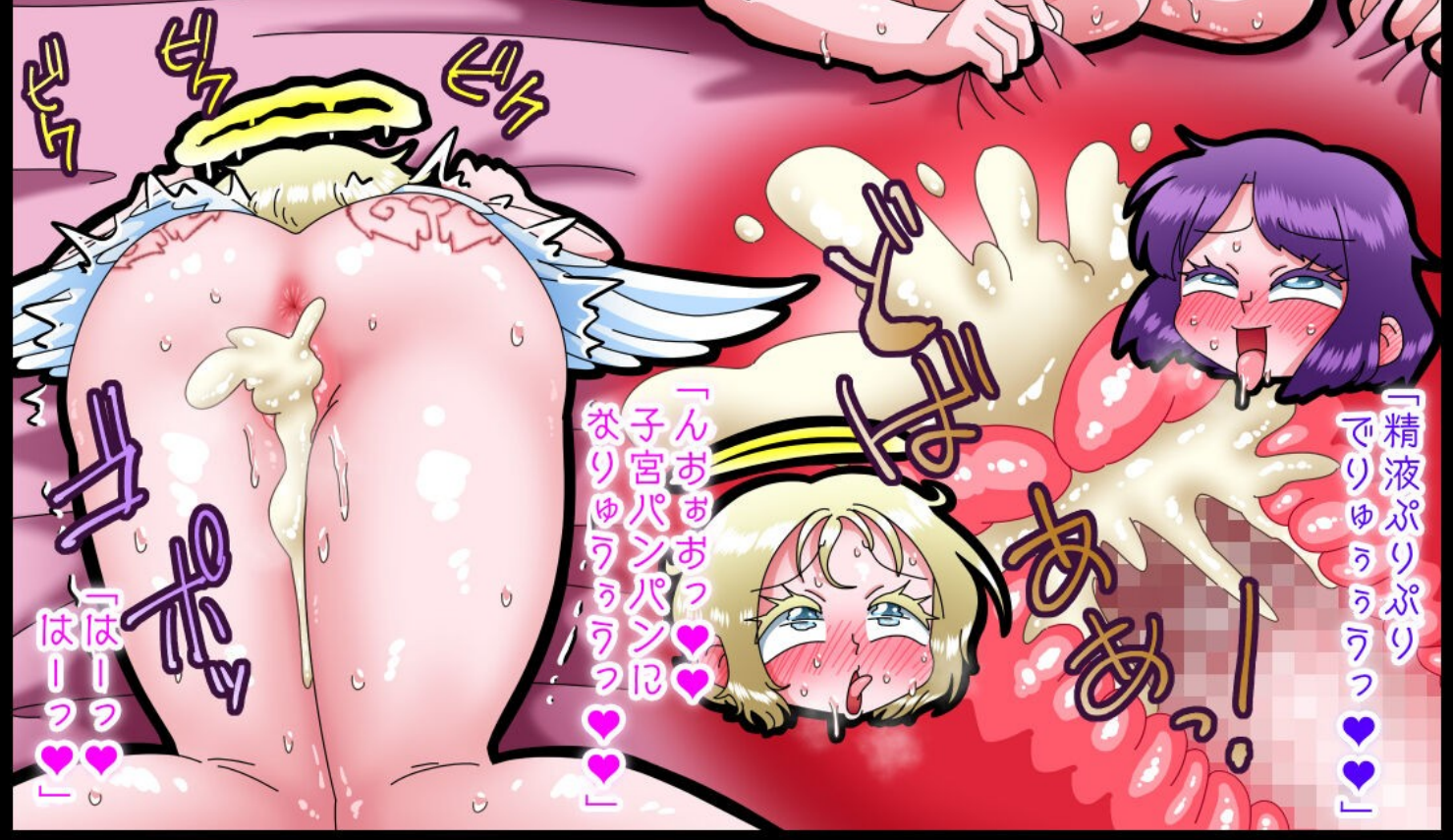
ぬちゃっ
ぬちゃっ

「天使おまんこ
柔らかあい♡♡
クセになりそう♡♡」

「あっ♡ あっ♡
あああ♡♡♡♡♡

「一緒にイキましょ♡♡
イクっ♡♡♡♡♡
イクっ♡♡♡♡♡」

「あひいひいんっ♡♡♡♡♡」



「精液ぷりぷり
でりゅうううっ♡♡」

「あめっ!

「んおおっ♡♡
子宮パンパンに
なりゅうううっ♡♡」

「はっ♡♡
はっ♡♡」

「すっかりトロトロね♡
おまんこがちゅうちゅう
吸い付いて気持ち良いわ♡」

「ああん♡ ああん♡
いやあん♡ ああん♡
もおいくのいやあん♡」

ぬちゃ
ぬちゃ

「はー♡ はー♡
何度充つて射精
できちゃう……♡」

「うふふ……♡
もうあな方は
私の物よ……♡」

「はあ♡ はあ♡
イクの止まらない……♡」

「うふふふ……♡」

「私は……♡
私は……♡」



「私は……
あなちの物です……♡」

「悪魔の赤ちゃん
産みます……♡」

「うふふ ♡
そうね
こんなにお腹が
大きくなって
来ちんぢもの」

「あともう少しで
あなちが悪魔の子を
産むのよ……♡
うふふ ♡」

ママ

スッ

とろろ





「あれから数か月
ワイは必死に
お嬢ちゃんの間を
探して世界中を
飛び回ったんや！」

「さつこの先に
他の天使が
おるハズやで！」

「ああワイは一体
誰に向かって
しゃべってるんや！」



「さつ!
なんだっけ!!
悪魔共が
そんな事を!!」

「ど言うワケ
なんや！」



「んー 天使か!?!」

「あつちで
見ろな！」

「ホンマか！」



「ふうん 悪魔風情が
ナメたマネして
くれるじゃん」

「ゆるせねえ！」

「ぶっつぶしてやる!!!」

「えへへ!!
腕が鳴るな!!」

「おっ♥ おおっ♥
まろ中出しっ♥」

「もう妊娠
しちゃいましゅっ♥」

「は〜は〜
は〜は〜♥
悪魔ちゃんぽで
墮天すりゅっ♥」

「皆仲良く私を
崇めるのよ♥」

びゅんっ

「イぐっ
イぐっ♥♥
イぐっ♥」

ぼんっ!
ぼんっ!
ぼんっ!

(あかん!
コイツは
弱すぎや!)

(も〜面倒
みきれんで
ホンマに!)

「ははい……
ライラ様……♥」

おしまい♥

ぶちゅんっ!

悪魔なんかには負けない！ だって天使だもん！

終

著者 切傷甲
配信開始 2022年11月

■ブログ

<https://ci-en.dlsite.com/creator/4699>

■SNS

<https://twitter.com/kirikizu1>



悪魔

なんかに

負けない!

だって

天使

だもん!

絶対
ついに
やで!!

うふふ...
勝てるかしら?

作切傷甲



「こんにちは！私リエル！最近この辺りで怪しい悪魔が目撃されているらしいの！」

「私が調査をしてやっつけなきゃ！」

「一体誰に向かって話してるんや……」

「あっ誰かあるで！」

「早速聞き込みに行きましょう！」

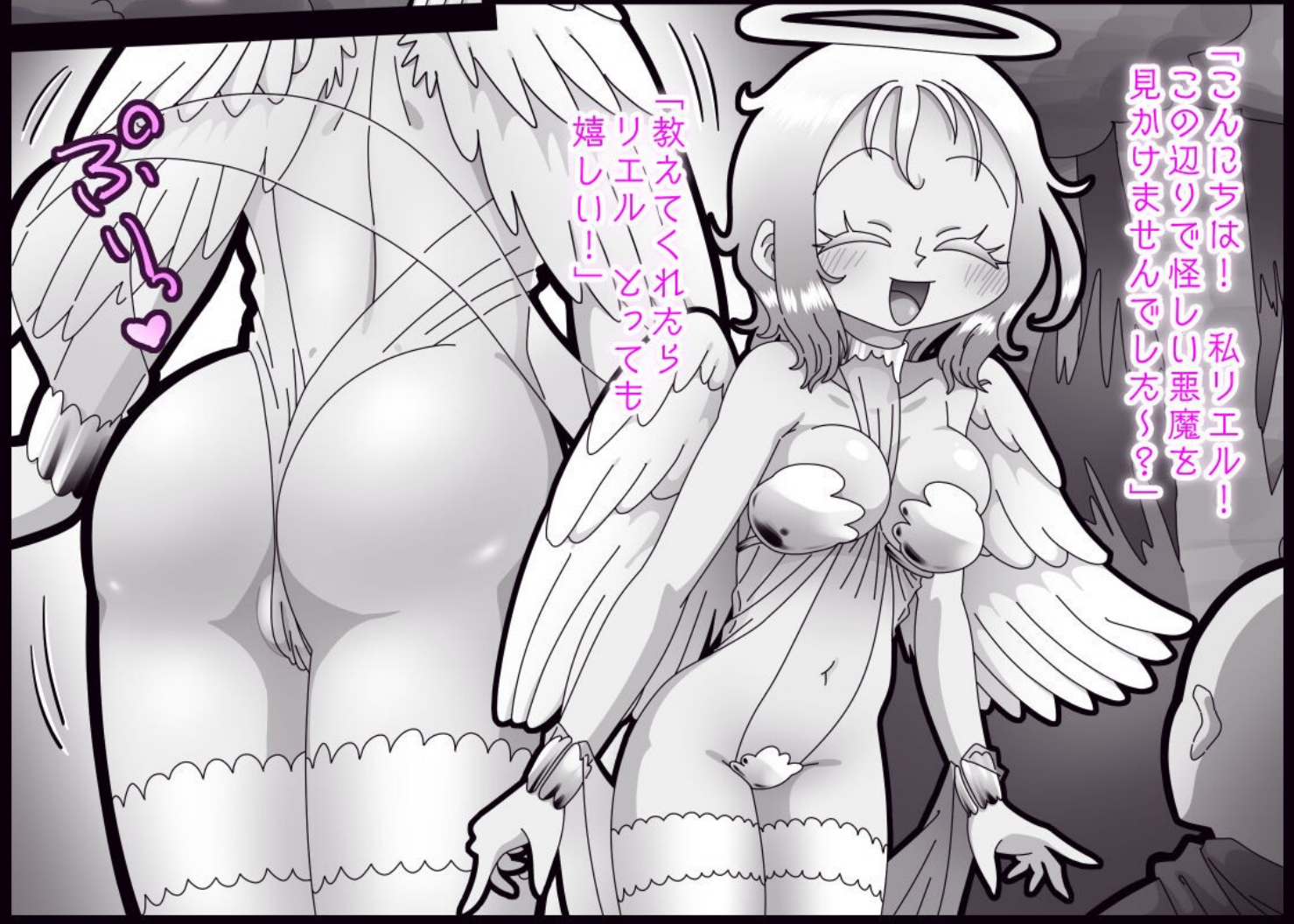
ふあ

ふあ

「こんにちは！私リエル！この辺りで怪しい悪魔を見かけませんか？」

「教えてくれ方リエルとっても嬉しい！」

ふあ





「あ、あり？
ありど？」

「皆さんお揃いで
どうしたんですか？」

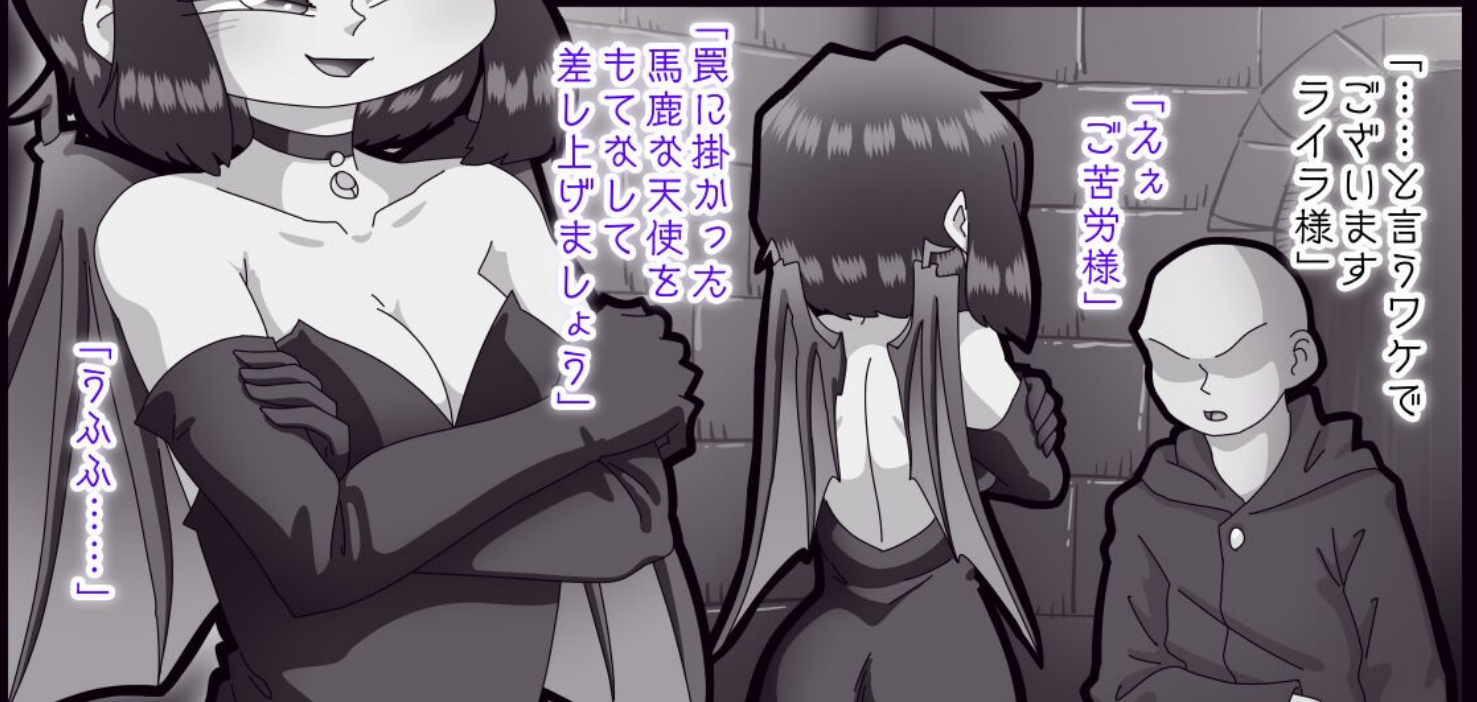
「なんか、そのカッ
流行ってるんです
かあ……？」

「あのお？
もしもし……？」



「きゃつ!!
いやん!!
何するのっ!!?
誰か……!!」

「え、えらい
こつちや
やでえ……!!」



「……と言うワケで
ごやいます
ライラ様」

「ええ
ご苦労様」

「罎に掛かつた
馬鹿な天使を
もてなして
差し上げましょう」

「うふふ……」

「天使にこの様な真似
神の裁きが下りますよ!」

「うふふ
強がっちゃって」

「ワイが助けを
連れて来るまで
耐えるんやで!」

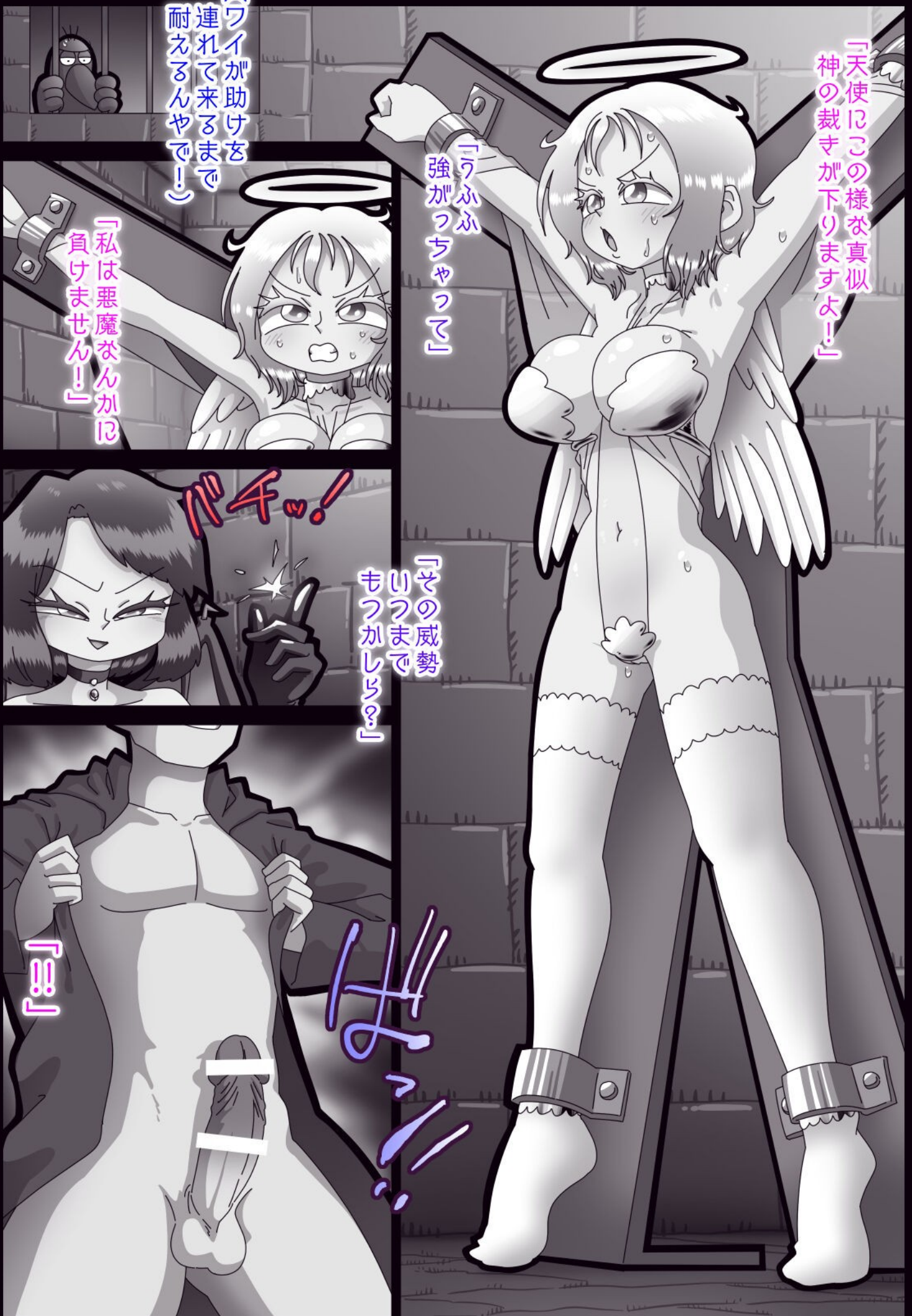
「私は悪魔なんかは
負けません!」

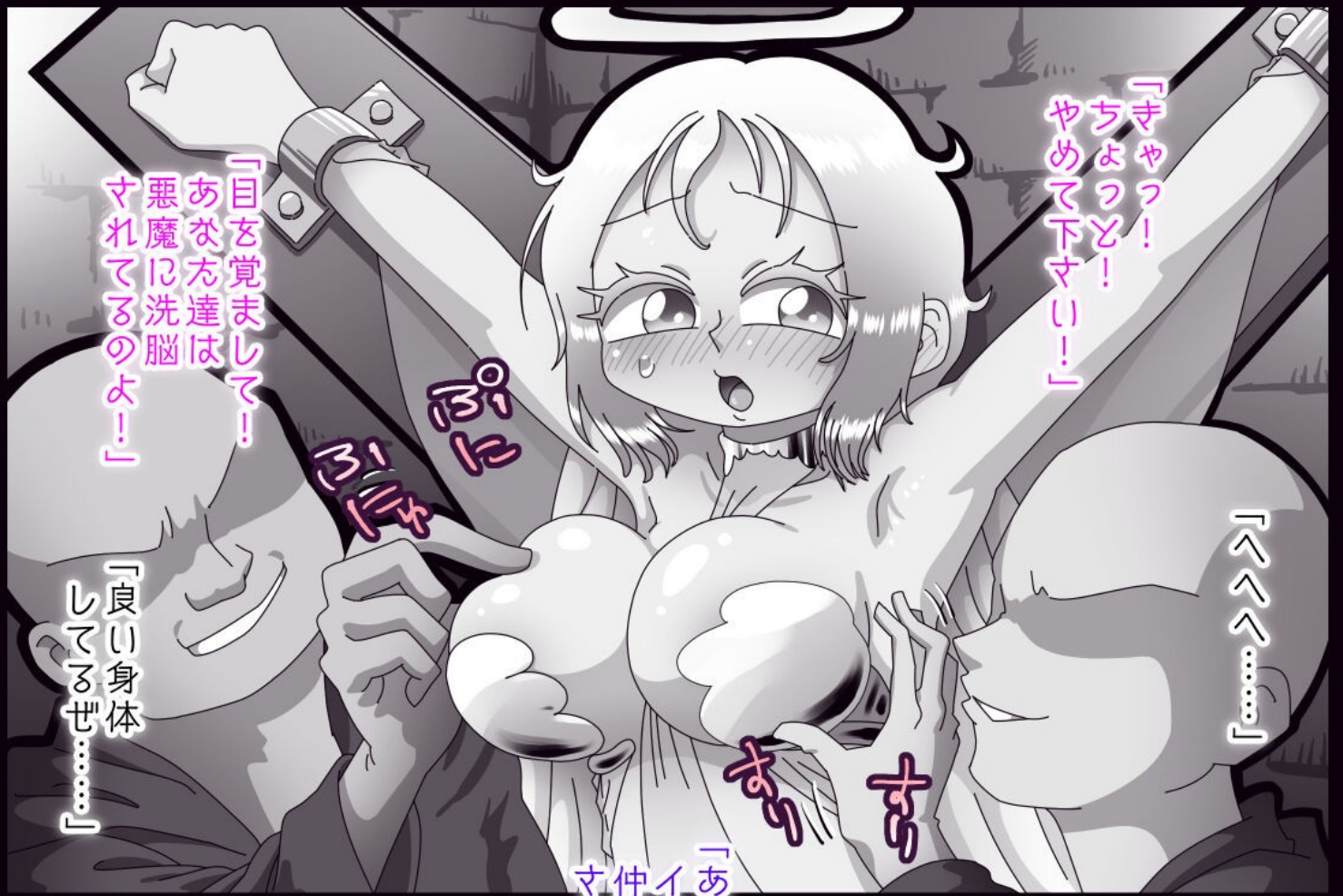
「その威勢
いつまで
もつかしら?」

バチッ!

ヒッ!

!!!





「きゃっ！
ちよつと！
やめて下さい！」

「目を覚まして！
あなを達は
悪魔に洗脳
されてるのよ！」

「良い身体
してるぜ……」

「……」

「あなをを
イかせまくって
仲間になりたく
らせてあげる♡」



「あんっ！」

どら!

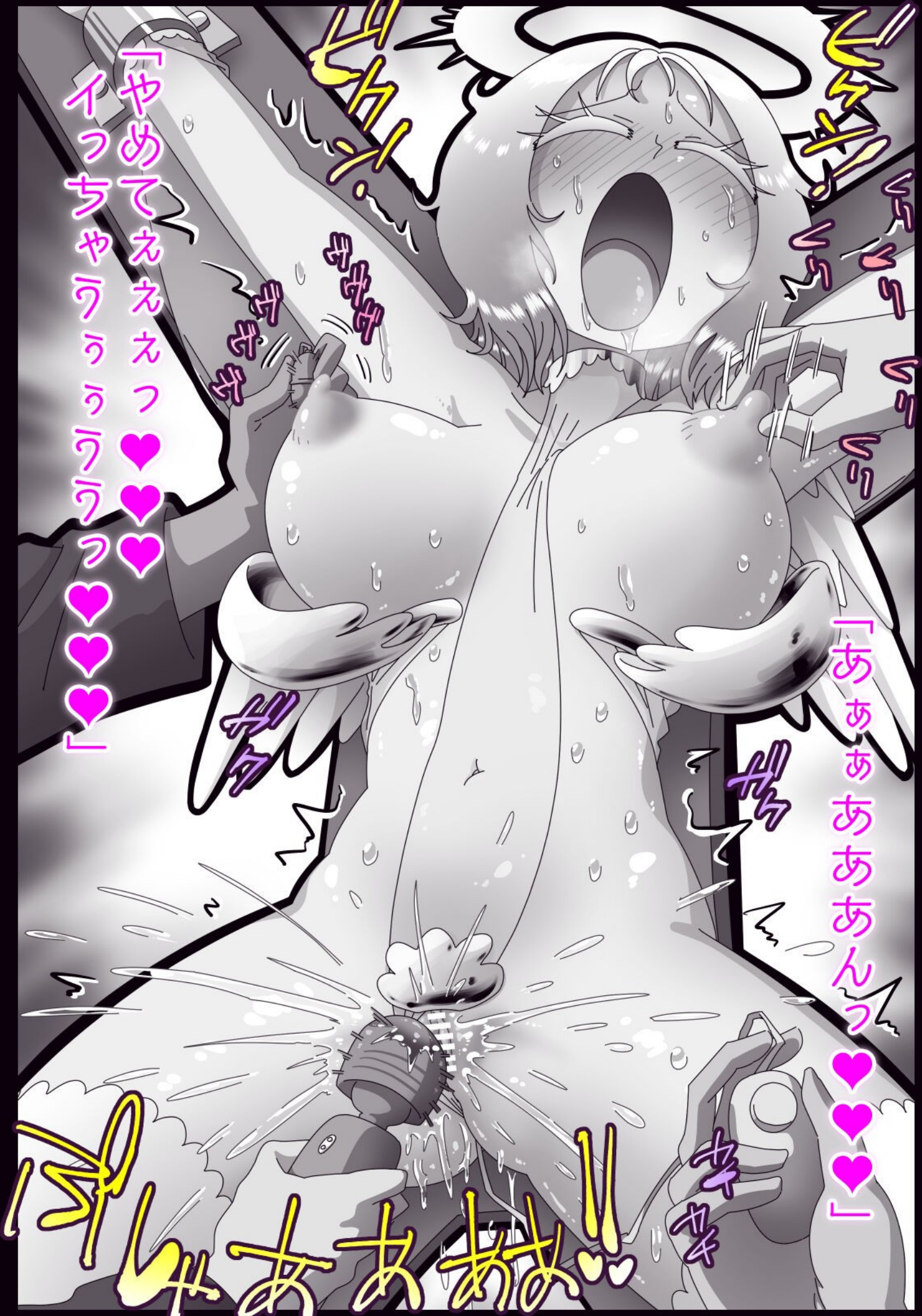
ぽろん

たっ

「だ
る
誰が仲間に
すか！」

「悪魔が何をしても
私は絶対に
イッ
方りしません!!」

きりっ!



「やめてえええつ♡♡♡♡♡
イフちやうううううううう」

ビクビク

ビクビク

「あゝあゝあゝあゝあゝんっ

♡♡♡♡♡」

「あゝあゝあゝあゝあゝ!!」

チチチチ



「はっ
はっ
はっ」

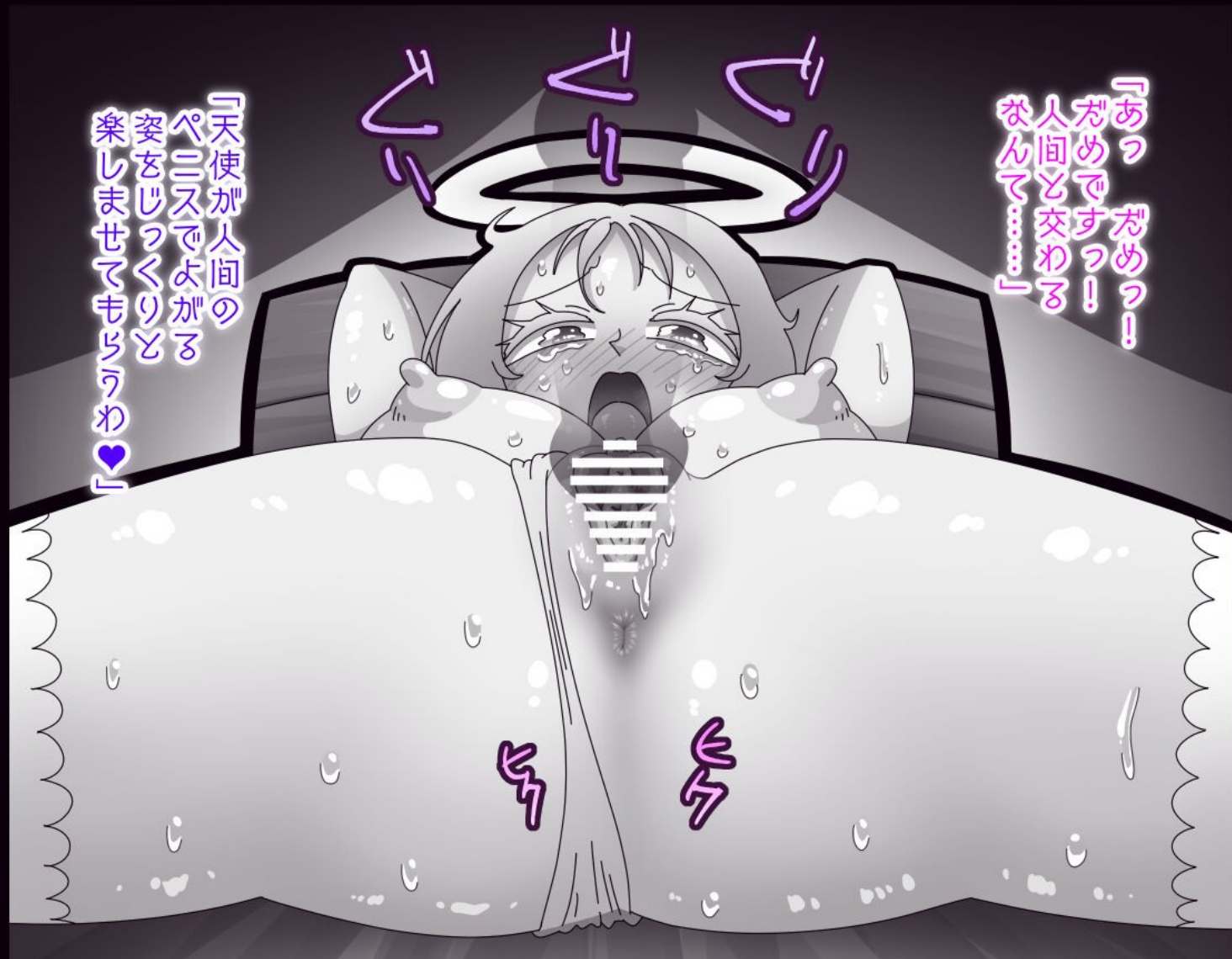
「はっ
はっ
はっ」

「うふふ
無様ねえ」

「でもこれで
終りじゃないわよ」

「ひいっ」

「はっ
はっ
はっ」



「あっ
だめですっ!
人間と交わる
なんて……」

「天使が人間の
ペニスでよがる
姿をじっくりと
楽しませてもらうわ」

「はっ
はっ
はっ」

「はっ
はっ
はっ」



「イッシャヤにっ♡♡♡」

「神しやまあ♡♡♡
ごめんしやいっ♡♡♡」

おま

びん

!!

ん

ん

ん

ん

ん

ん



ぬるんっ

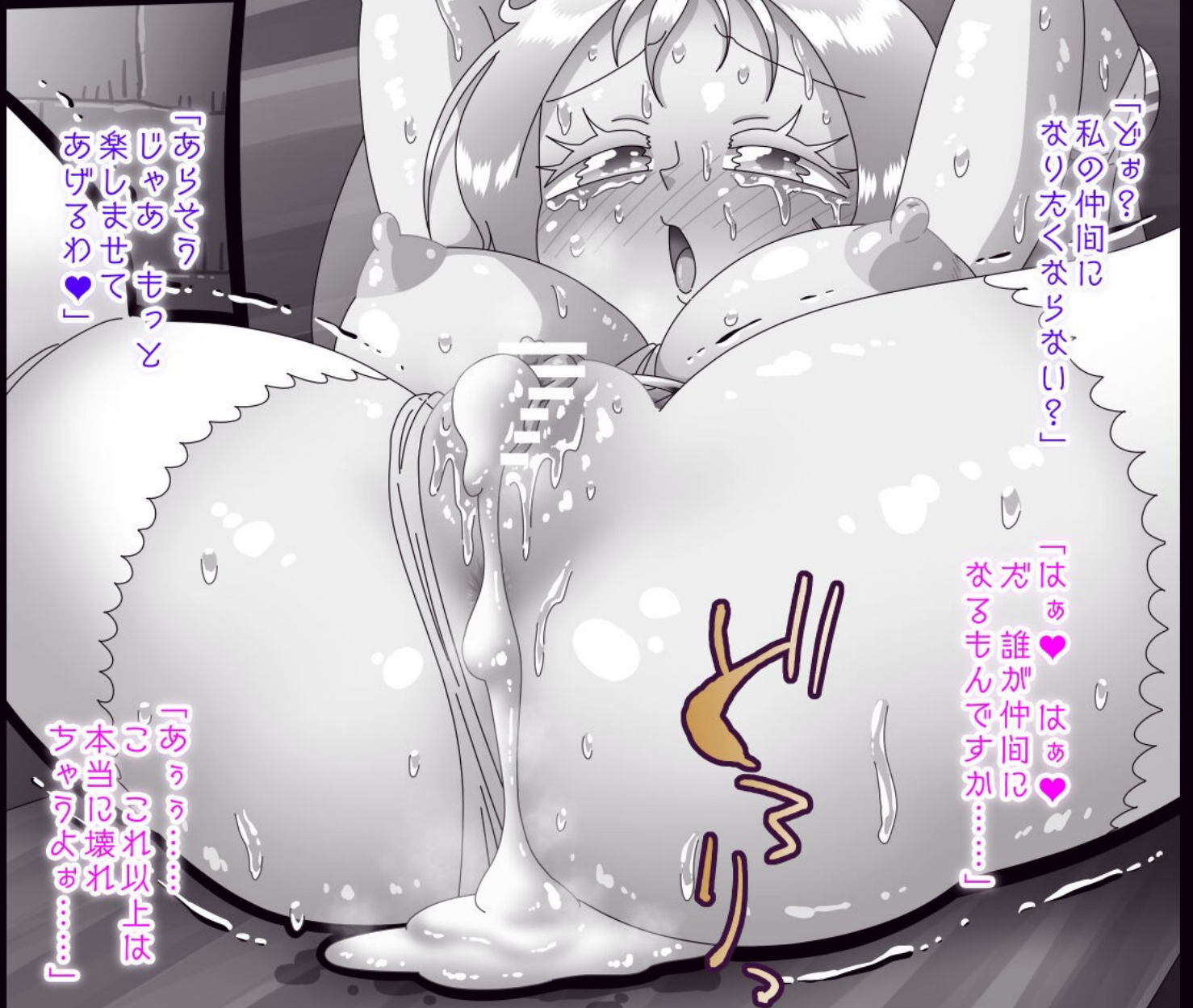
「気持ち良くて……
おかしくなっちゃう♡」

「ああんっ♡
いやんっ♡
ああんっ♡
いやあんっ♡」

びしょっ
びしょっ
びしょっ
びしょっ
びしょっ
びしょっ

びしょっ

びしょっ
びしょっ
びしょっ
びしょっ



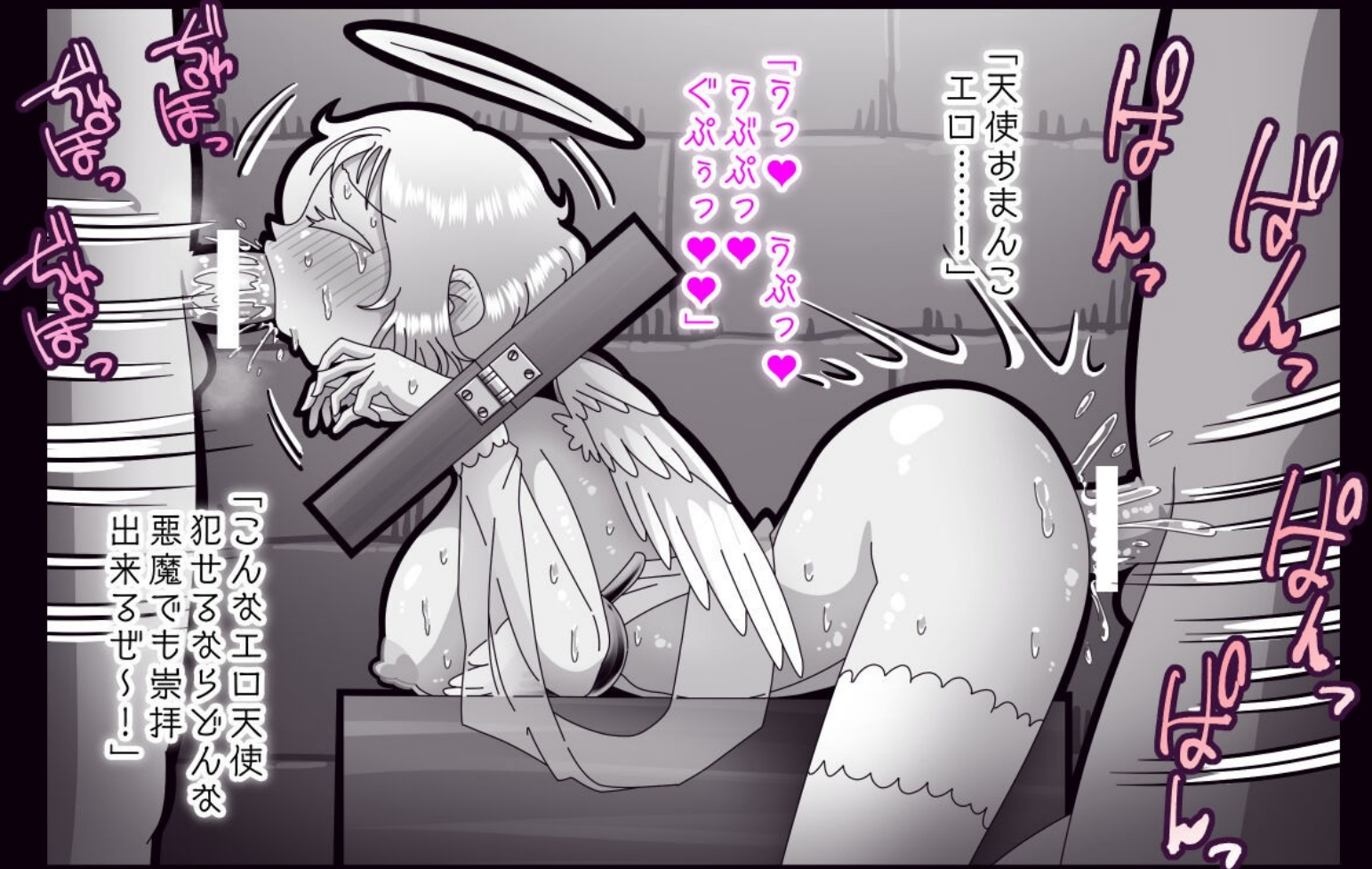
「どお？
私の仲間に
なりたくならない？」

「はあ♡ はあ♡
だ誰が仲間に
なるもんですか……」

「あらそう
じゃあもっと
楽しませて
あげるわ♡」

「あう……
ここれ以上は
本当に壊れ
ちゃうよお……」

びしょっ
びしょっ
びしょっ
びしょっ
びしょっ



「天使おまんこ
エロ……!」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「こんなエロ天使
犯せるならおんな
悪魔でも崇拝
出来るぜ!」



「ザーメンの味、
しつかり憶えろ!」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」



「おりゃあ!
天使に種付けだ!」

「んむっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「中々しぶとい
わねえ……」

「はぁ♡ はぁ♡
あ♡当方り前ですっ♡
神に仕える者は
これしきの事で
くじけたりしませんっ♡」

「……のワリには
楽しんでやってる
みちいじやない♡」

「までも流石に
コレは耐えられる
かしら……？」

「えっ!?!
まっまっかっ
それを……」

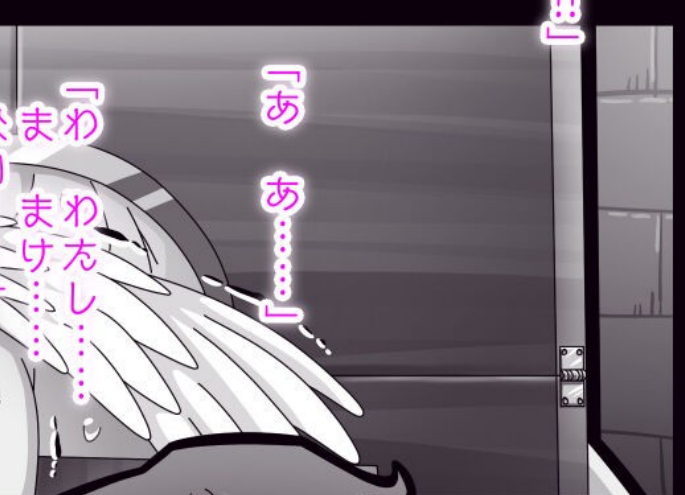
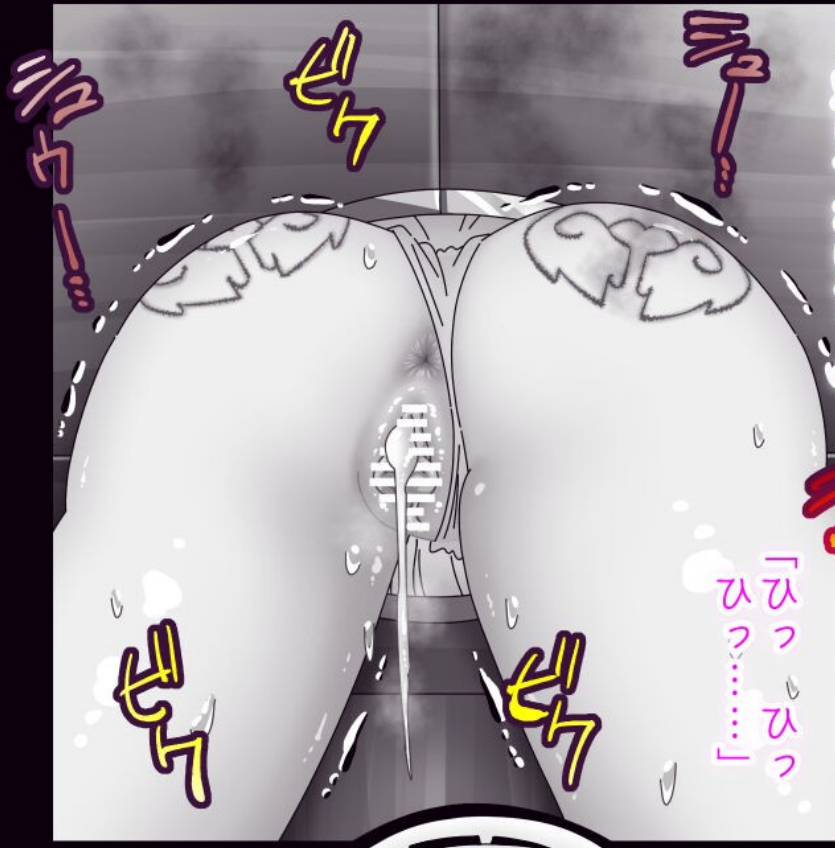
どろろ

#7

#7

#7

#7



「でもまだ終りじゃ
ないのよ!!」

「ホラホラホラ!
可愛いお尻も
焼いてあげる!」

ピッピッピッ

「ひっひっ
ひっ……ひっ」

「ひっひっひっひっ!!」

「あ
あ……」

「わ
まわ
まわ
まけ……」

「可愛がってあげるしか
ないみたいねえ……♡」

「こうなつたら
アタシが直々に……」

「立派な忠誠心ねえ
そんなに神とやらが
良いのかしら……」

ピッピッ

「まあ天使ちゃん
私と楽しみ
ましよう……♡」

「……け……
汚らわしい！」

「うふふ♡
その威勢がいつまで
保つかしらね♡」

「えっ!？」

「女の子の身体に
おちんちん!？」

「うふふふふ♡
悪魔の力は
何でもアリなの♡」

「あ
そあ
そあ
そあ……」

あ
あ
あ
あ

「おっ♡おっ♡
んおおおっ♡♡♡」

「どう？
女の子に犯される
気持ちは……？」

「ここが気持ち良いのか
私には全部わかるのよ♡」

「Innocence」

おっおっ

おっおっ

おっおっ

おっおっ

おっおっ

「ホラホラ！
言いなさい！
ここが気持ち
良いんでしょ!？」

「あぁっ！
だ 駄目っ！」

おっおっ

おっおっ

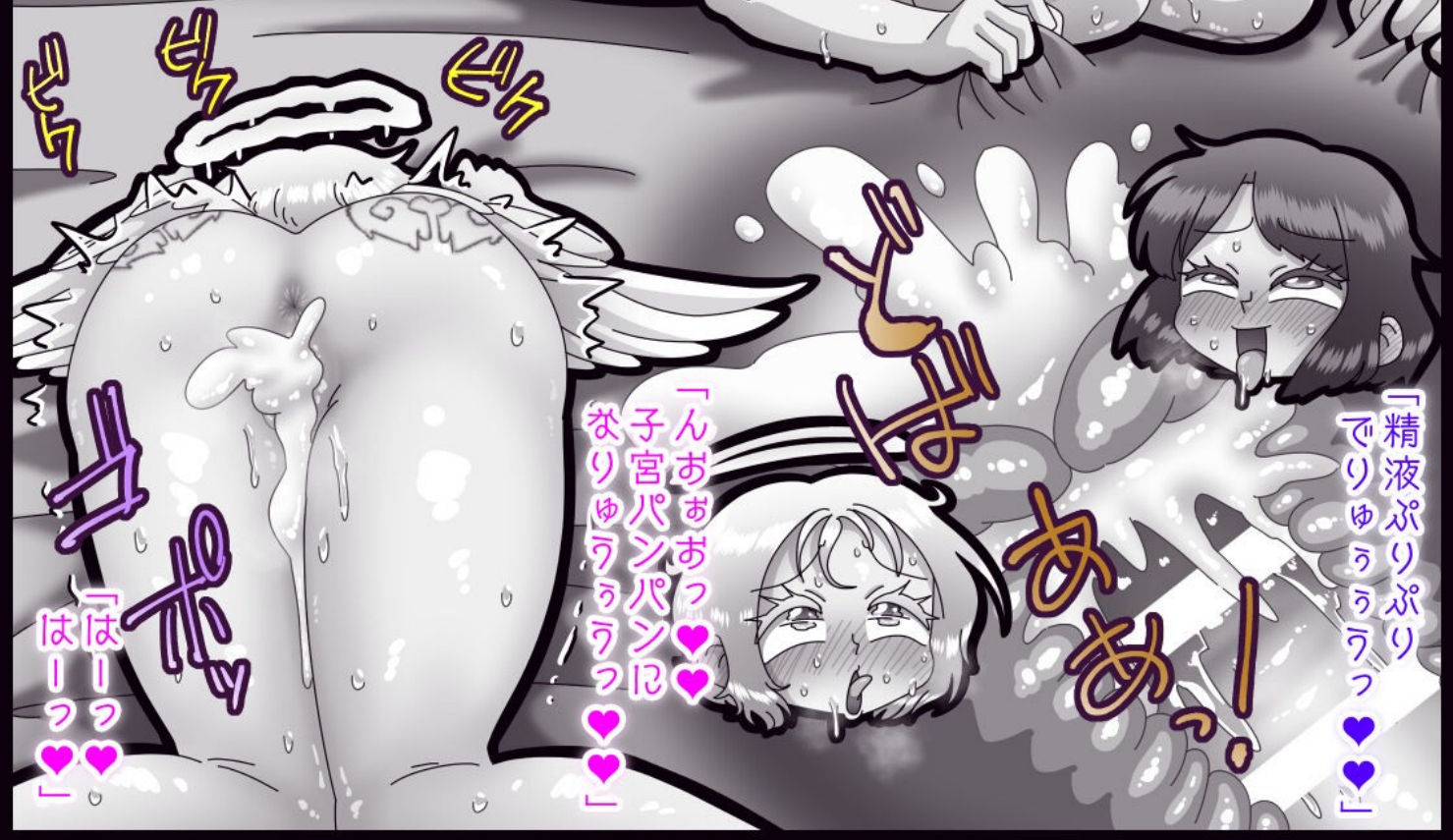
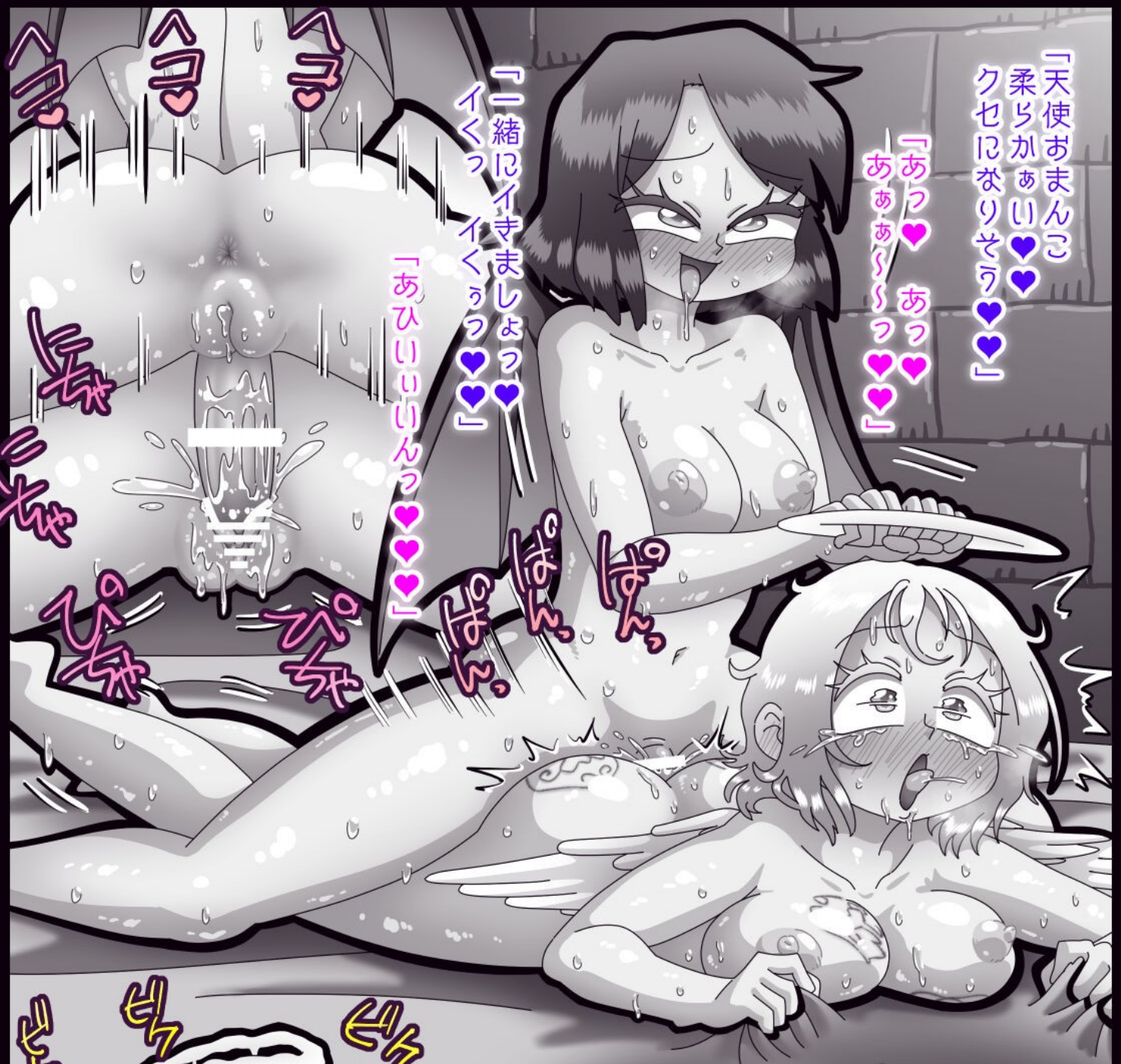
「こっやっって首を
締められると
キュンキュン
しちゃうん
でしよう!？」

「天使おまんこ
柔らかあい♡♡
クセになりそう♡♡」

「あっ♡ あっ♡
あああ♡♡♡♡♡

「一緒にイキましょ♡♡
イクっ♡ イクっ♡♡

「あひいひいんっ♡♡♡♡♡



「精液ぷりぷり
でりゅううっ♡♡

「あめ!!

「んおおっ♡♡
子宮パンパンに
なりゅううっ♡♡

「はーっ♡♡

「すっかりトロトロね♥
おまんこがちゅうちゅう
吸い付いて気持ち良いわ♥」

「ああん♥ ああん♥
いやあん♥ ああん♥
もおいくのいやあん♥」

ぬちゃ
ぬちゃ

「はー♥ はー♥
何度充つて射精
できちゃう……♥」

「うふふ……♥
もうあな方は
私の物よ……♥」

「はあ♥ はあ♥
イクの止まらない……♥」

「うふふふ……♥」

「私は……
私は……♥」

どろろ

どろろ

どろろ

「ああ……♥
びゅーびゅーしてりゅ……♥」

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

「私は……
あな方の物です……♡」

「悪魔の赤ちゃん
産みます……♡」

「うふふ ♡
そうね
こんなにお腹が
大きくなって
来たんぢもの」

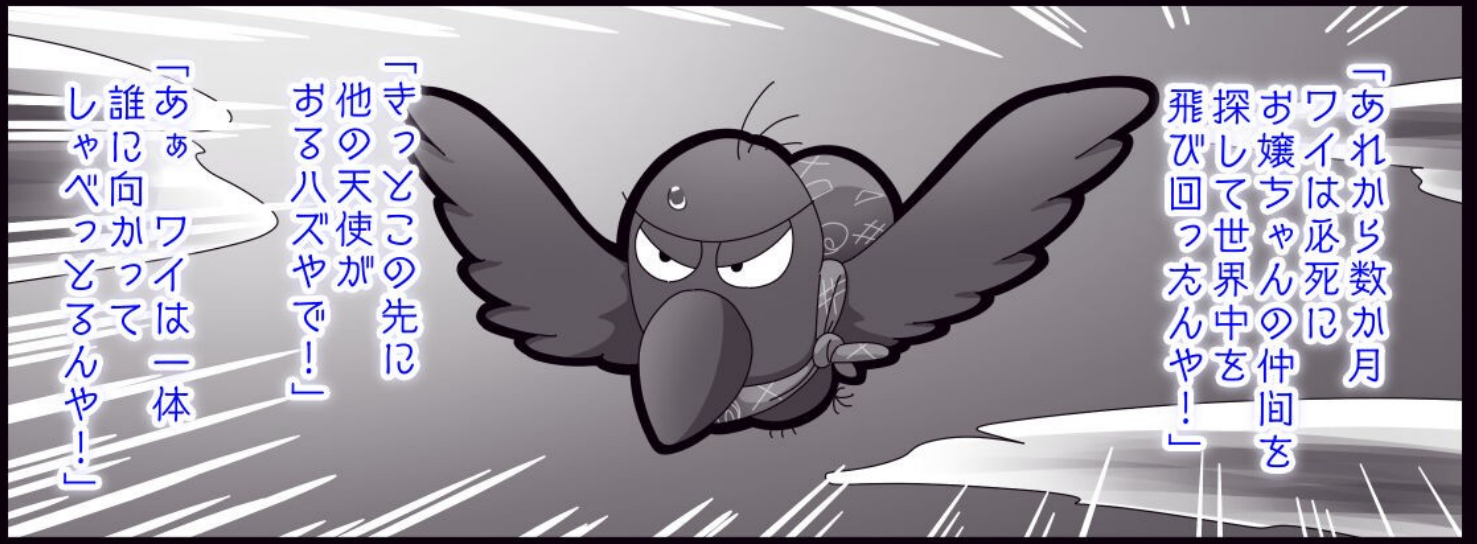
「あともう少しで
あな方は悪魔の子を
産むのよ……♡
うふふ ♡」

ママ

ス
ス

とろろ





「あれから数か月
ワイは必死に
お嬢ちゃんの間を
探して世界中を
飛び回ったんや！」

「さつこの先に
他の天使が
おるハズやで！」

「ああワイは一体
誰に向かつて
しゃべってるとるんや！」



「さつ!
なんだつて!?!
悪魔共が
そんな事を!?!」

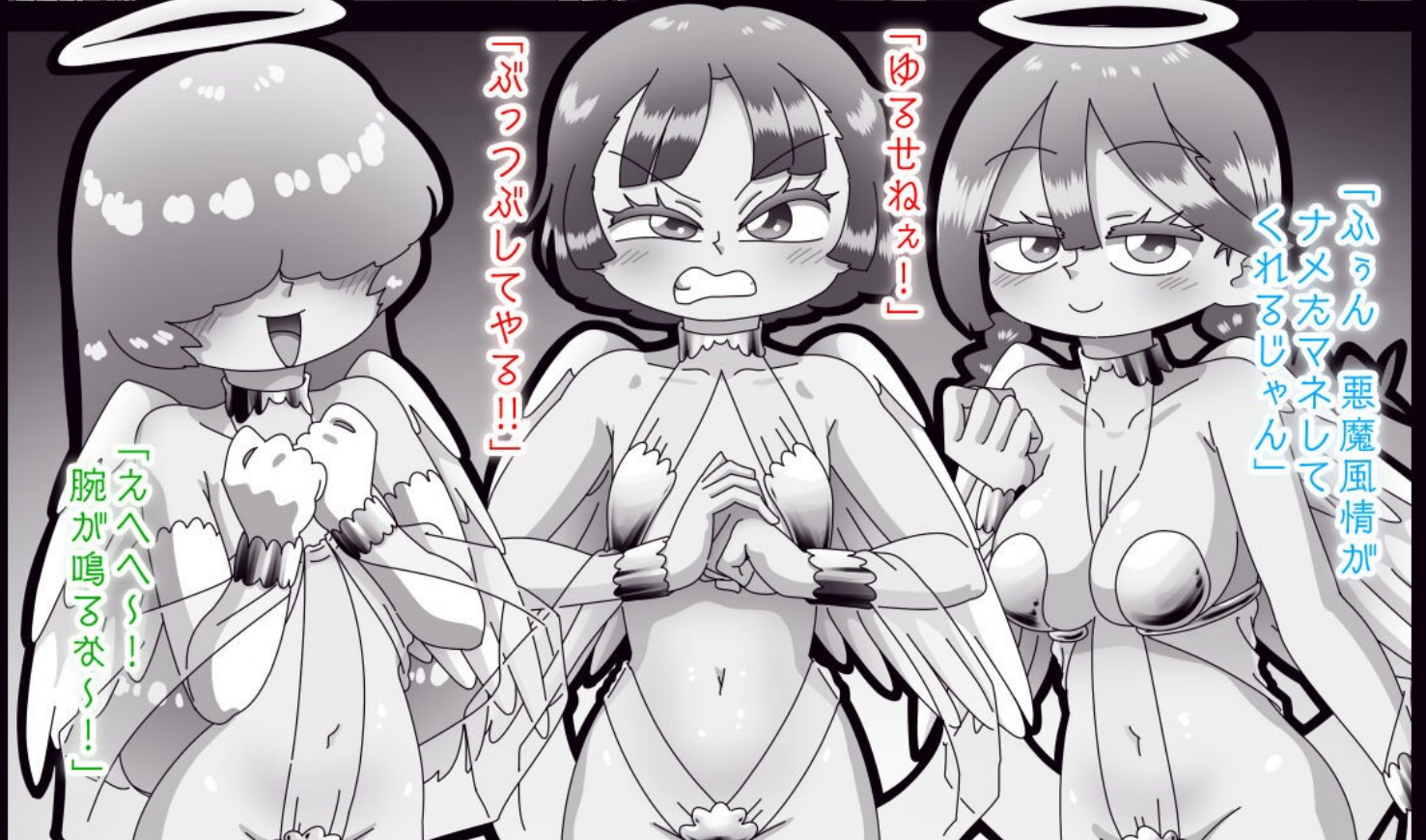
「ど言うワケ
まんや！」



「あつちで
見ろな！」

「んー 天使か!?!」

「ホンマか！」



「ふうん 悪魔風情が
ナメたマネして
くれるじゃん」

「ゆるせねえ！」

「ぶっつぶしてやる!!!」

「えへへ!!
腕が鳴るな!!」

「おっ♥ おおっ♥
まろ中出しっ♥」

「もう妊娠
しちゃいましゅっ♥」

「は〜は〜
は〜は〜♥
悪魔ちんぽで
墮天すりゅっ♥」

「皆仲良く私を
崇めるのよ♥」

びゅんっ

「イぐっ♥
イぐっ♥
イぐっ♥
うっ♥」

ぼんっ!

ぼんっ!

(あかん!
コイツは
弱すぎや!)

(も〜面倒
みきれんで
ホンマに!)

「ははい……
ライラ様……♥」

おしまい♥

ちゅんっ!

悪魔

なんかに

負けない

だって

天使

だもん!

絶対
ついに
やで!!

うふふ...
勝てるかしら?

作切傷甲



「こんにちは！私リエル！最近この辺りで怪しい悪魔が目撃されているらしいの！」

「私が調査をしてやっつけなきゃ！」

「一体誰に向かって話してるんや……」

「おっ 誰かおるで！」

「早速聞き込みに行きましよう！」

ふふ

ふふ

「こんにちは！私リエル！この辺りで怪しい悪魔を見かけませんか？」

「教えてくれ方々リエルとつても嬉しい！」

ふふ





「天使にこの様な真似
神の裁きが下りますよ!」

「うふふ
強がっちゃって」

「ワイが助けを
連れて来るまで
耐えるんやで!」

「私は悪魔なんか
負けません!」

「その威勢
いつまで
もつかしら?」

「バチッ!」

「!!!」

「!!!」





「ちやっ!
ちよつと!
やめて下さい!」

「<<<<……」

「目を覚まして!
あな方を
悪魔に洗脳
されてるのよ!」

「良い身体
してるぜ……」

「すす
すす」

「あな方を
イかせまくって
仲間になりたく
らせてあげる♡」



「どわ!」

「ほろん」

「ちやっ
ちよつと」

「だ
る
誰が仲間に
るもんですか!」

「悪魔が何をしても
私は絶対に
イッ方りしません!!」

「ぎ
りっ!
ぎりっ!
ぎりっ!

「あぁあぁあぁあんっ♡♡♡」

「やめてえええっ♡♡♡
イっちやうううううっ♡♡♡」

「あぁあぁあぁあ!!♡♡」

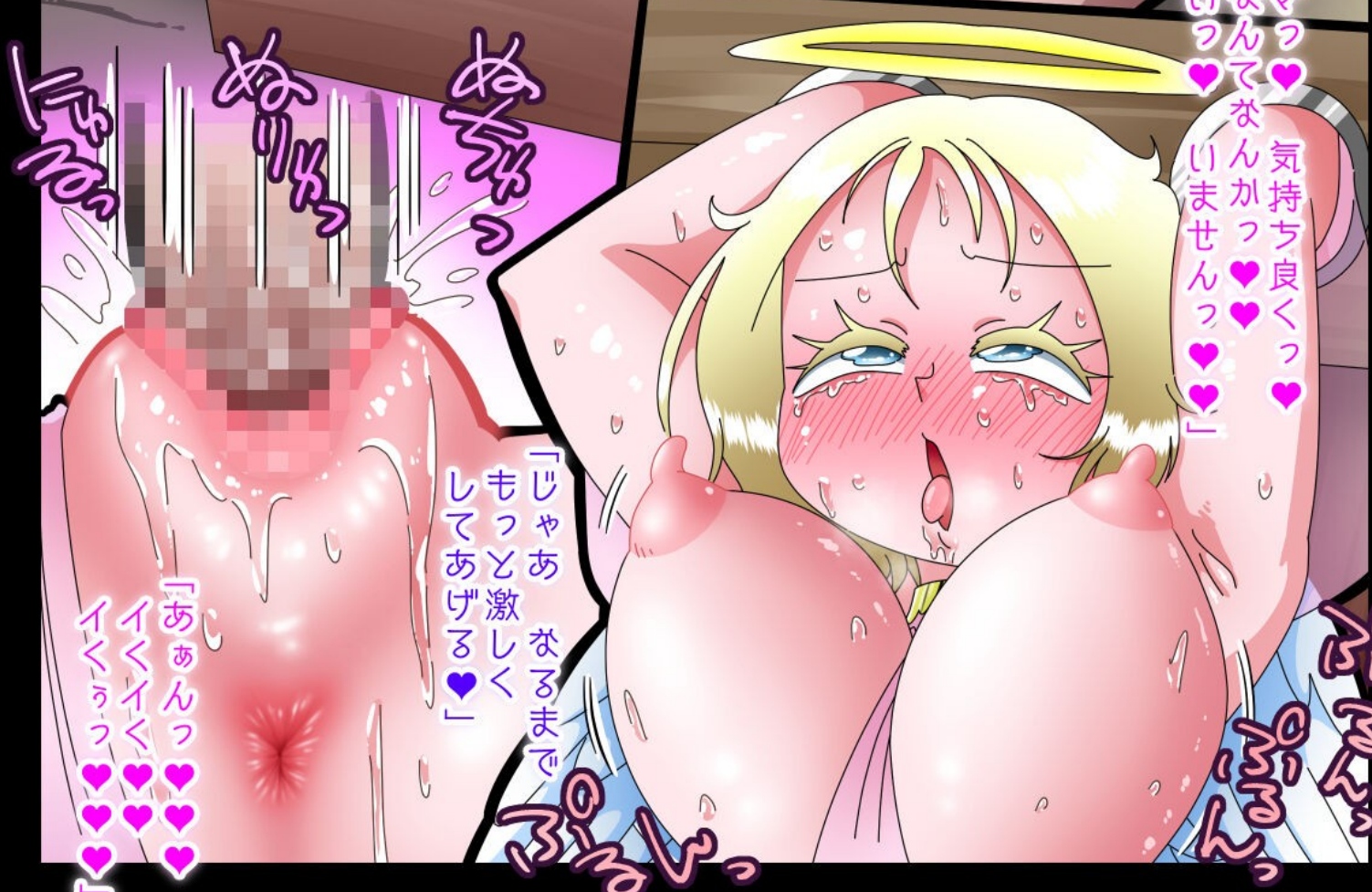




「あっ♡♡♡ あんっ♡♡♡
いやんっ♡♡♡ いやんっ♡♡♡」

「なんて
いやらしい子
なのかしらね♡」

「処女なのに
これだけ激しく
マサレても
気持ち良く
なるなんて♡」



「きっ♡♡♡ 気持ち良くっ♡♡♡
なんてなんかつ♡♡♡
いっ♡♡♡ いませんっ♡♡♡」

「じゃあ なるまで
もっと激しく
してあげる♡」

「ああんっ♡♡♡
イクイク♡♡♡
イクっ♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡」

ぬるっ♡♡♡
ぬるっ♡♡♡
ぬるっ♡♡♡

おんっ♡♡♡
おんっ♡♡♡
おんっ♡♡♡



「イッちゃににっ♡♡♡」

「神しやまあっ♡♡♡
ごめんしやいっ♡♡♡」

おめめ

びん

おめめ

!!

おめめ

おめめ



「気持ち良くて……
おかしくなっちゃう♡」

「ああんっ♡
いやんっ♡
ああんっ♡
いやあんっ♡」

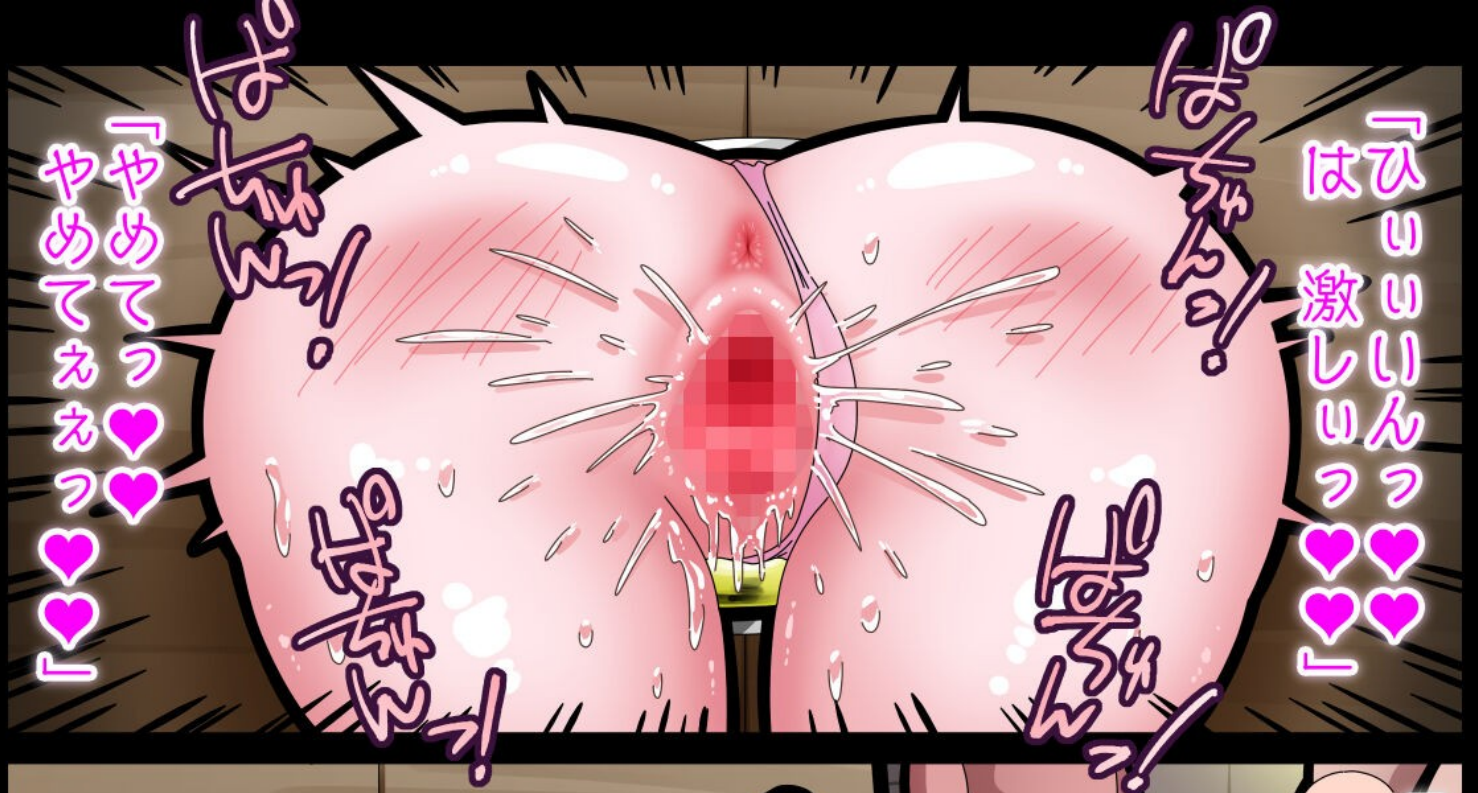
「どあ？
私の仲間に
なりたくならない？」

「はあ♡ はあ♡
だ誰が仲間に
なるもんですか……」



「あらそう
じゃあもっ
と
楽しんで
あげて♡」

「あう……
これ以上は
本当に壊れ
ちゃうよあ……」



「やめてっ♡♡♡
やめてええっ♡♡♡」

「ひいひい♡♡♡
はっはっ♡♡♡
激しい♡♡♡
♡♡♡」

はっはっ♡♡♡
はっはっ♡♡♡



「ああっ♡♡♡
はあ♡♡♡
はあ♡♡♡」

「あううん♡♡♡」

「おおおっ 出るっ!!
天使まんこ中出し!」



「俺の臭い
染みつかせて
やるぜ!」

「あう あうう
やらああ...」

「えっろい顔
しゃがってよ!」

びびるっ!

どろお〜...

「中々しげとい
わねえ……」

「はぁ♡ はぁ♡
あ♡当り前ですっ♡
神に仕える者は
これしきの事で
くじけたりしませんっ♡」

「……のワリには
楽しんでやってる
みちいじやない♡」

「までも流石に
コレは耐えられる
かしら……？」

「えっ!?!
まっまっかっ
それ……」





「可愛がってあげるしか
ないみたいねえ……♡」

「こうなつたり
アタシが直々に……」

「ま
まあ良いわ
聞いてたハナシと
違うけど……」

グッグッ

「ちよつと！
何でなの!？」

「アンタのお尻
どうなつてん
のよお……つ!!」

「いやあああん!!」

「あ
あ……」

「わ
わわわ……
ま
まけ……
ない……」

「まあ天使ちゃん
私と楽しみ
ましよう……♡」

「……け……
汚らわしい！」

「うふふ♡
その威勢がいつまで
保つかしらね♡」

「女の子の身体に
おちんちん!?!」

#キリッ

「あ
あ
あ
あ……
そ
そ
そ
そ……」

「うふふふふ♡
悪魔の力は
何でもアリなの♡」

「おっ♡おっ♡
んおおおっ♡♡♡」

「どう？
女の子に犯される
気持ちは……？」

「ここが気持ち良いのか
私には全部わかるのよ♡」

「Ino Room」

ぬぢゅぢゅ

ぢゅぢゅ

「あっ あがっ
あぐっ……」

「ホラホラ！
言いなさい！
ここが気持ち
良いんでしょ!？」

「あぁっ！
だ 駄目っ！」

ぬぢゅぢゅ

ぢゅぢゅ

「こっやっって首を
締められると
キュンキュン
しちゃうん
でしよう!？」

ぢゅぢゅ

ぢゅぢゅ

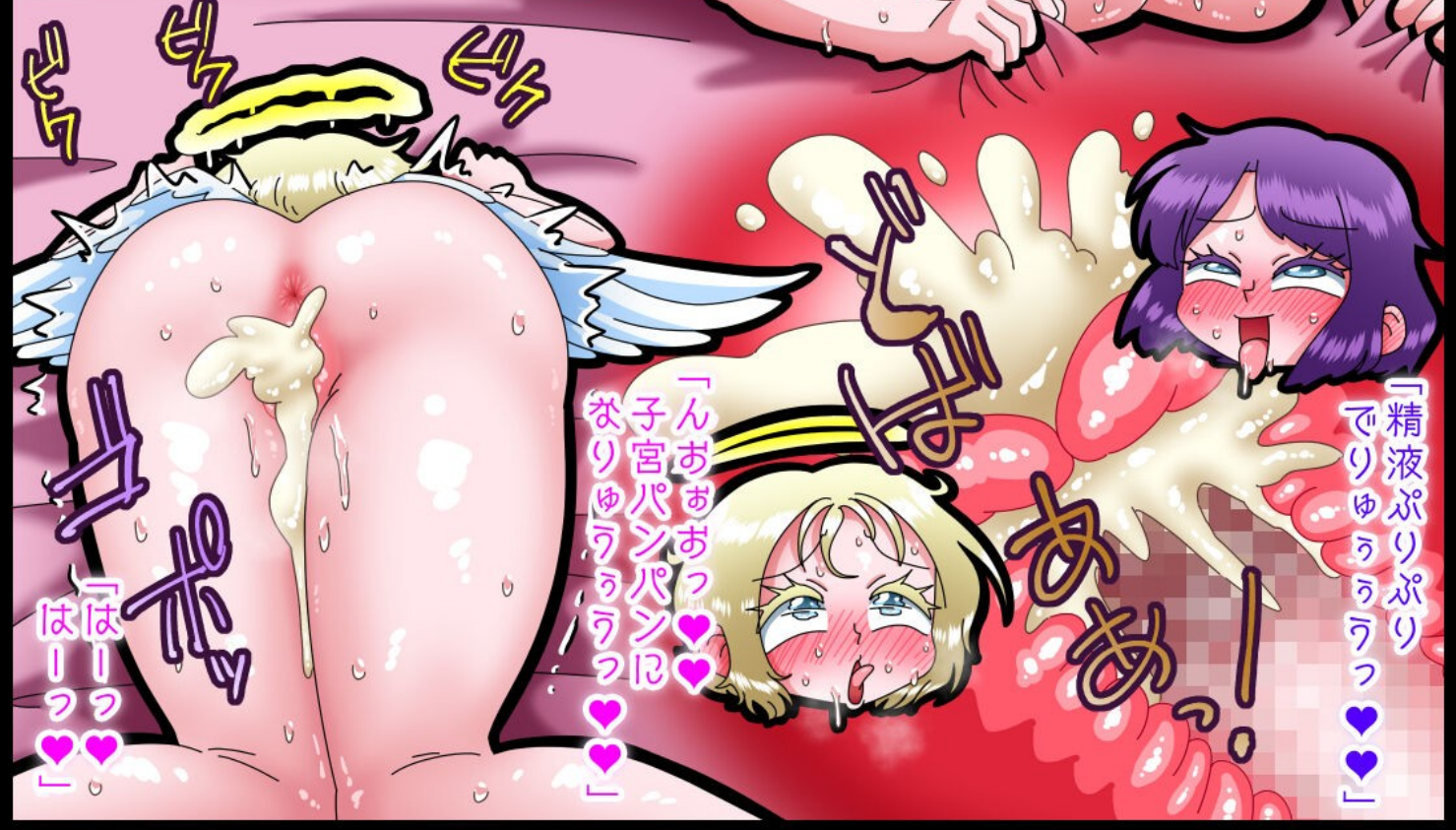
ぢゅぢゅ

「天使おまんこ
柔らかあい♡♡
クセになりそう♡♡」

「あつ♡ あつ♡
あああ♡♡♡♡♡

「一緒にイキましょ♡♡
イクっ♡♡♡♡♡
イクっ♡♡♡♡♡」

「あひいひいんっ♡♡♡♡♡」



「精液ぷりぷり
でりゅうううっ♡♡」

「んおおっ♡♡
子宮パンパンに
なりゅうううっ♡♡」

「はっ♡♡
はっ♡♡」

「すっかりトロトロね♡
おまんこがチゆうチゆう
吸い付いて気持ち良いわ♡」

「ああん♡ ああん♡
いやあん♡ ああん♡
もおいくのいやあん♡」

ぬちゃ
ぬちゃ

「はー♡ はー♡
何度充つて射精
できちゃう……♡」

「うふふ……♡
もうあな方は
私の物よ……♡」

「はあ♡ はあ♡
イクの止まらない……♡」

「ああ……♡
びゅーびゅーしてりゅ……♡」

「私は……♡
私は……♡」

「うふふふ……♡」



「私は……
あなちの物です……♡」

「悪魔の赤ちゃん
産みます……♡」

「うふふ ♡
そうね
こんなにお腹が
大きくなって
来ちんぢもの」

「あともう少しで
あなちが悪魔の子を
産むのよ……♡
うふふ ♡」

ママ

スィスィ

とろろ





「あれから数か月
ワイは必死に
お嬢ちゃんの間を
探して世界中を
飛び回ったんや！」

「さつこの先に
他の天使が
おるハズやで！」

「ああワイは一体
誰に向かって
しゃべってるんや！」



「さつ!
なんだっけ!!
悪魔共が
そんな事を!!」

「ど言うワケ
なんや！」



「んー 天使か!?!」

「あつちで
見ろな！」

「ホンマか！」



「ふうん 悪魔風情が
ナメたマネして
くれるじゃん」

「ゆるせねえ！」

「ぶっつぶしてやる!!!」

「えへへ!!
腕が鳴るな!!」

「おっ♥ おおっ♥
まろ中出しっ♥」

「もう妊娠
しちゃいましゅっ♥」

「は〜は〜
は〜は〜♥
悪魔ちゃんぽで
墮天すりゅっ♥」

「皆仲良く私を
崇めるのよ♥」

びゅんっ

「イぐっ♥
イぐっ♥
イぐっ♥
うっ♥」

「ははい……
ライラ様……♥」

おしまい♥

(あかん!
コイツは
弱すぎや!)

(も〜面倒
みきれんで
ホンマに!)

ぶちまけろ!

ばかばか!

ばかばか!



悪魔

なんかに

負けない!

だって

天使

だもん!

絶対
つ対
んに
やで!!

うふふ...
勝てるかしら?

作切傷甲



「こんにちは！私リエル！最近この辺りで怪しい悪魔が目撃されているの！」

「私が調査をしてやっつけなきゃ！」

「一体誰に向かっている話にとるんや……」

「あっ誰かおるで！」

「早速聞き込みに行きましよう！」

ふあ

ふあ

「こんにちは！私リエル！この辺りで怪しい悪魔を見かけませんでしゅか？」

「教えてくれ方リエルとつても嬉しい！」

ふあ♡



「あ、あり？
ありど？」

「皆さんお揃いで
どうしたんですか？」

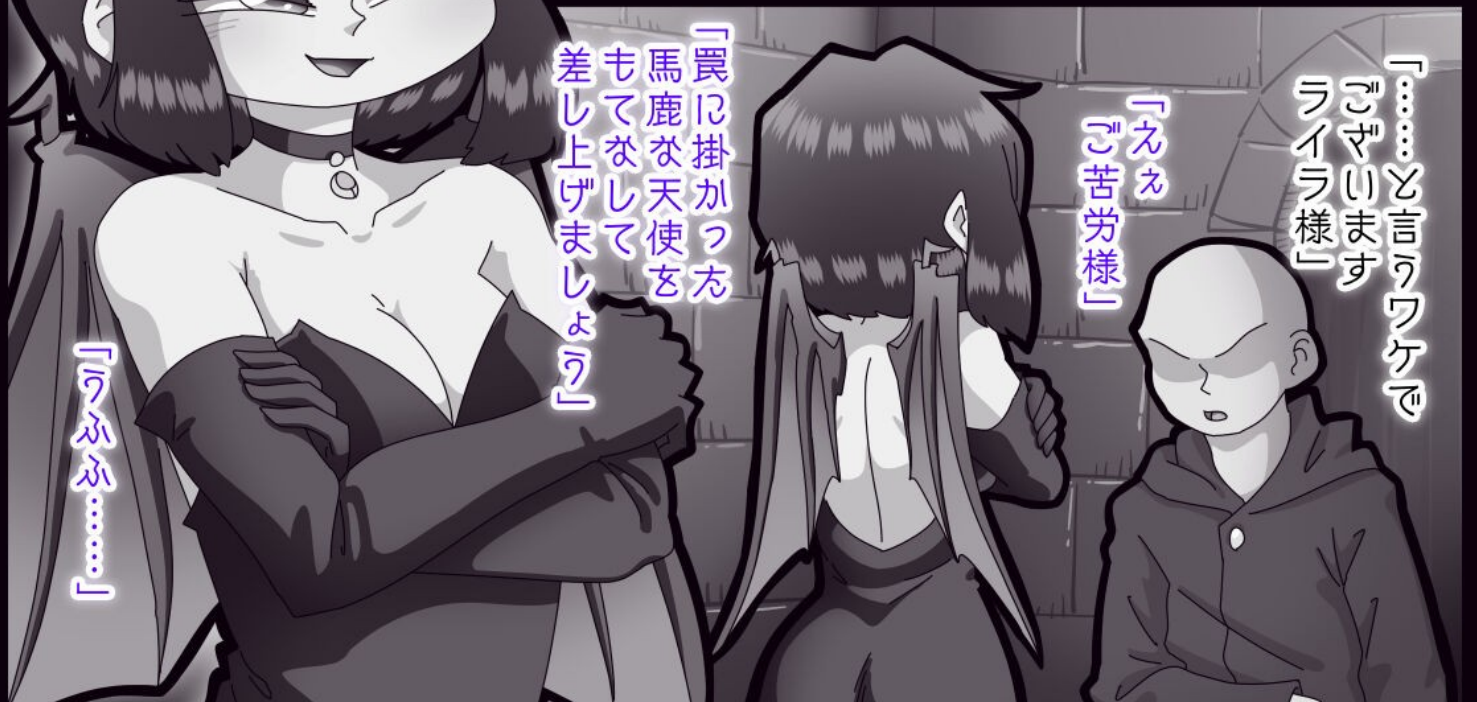
「なんか、そのカッ
流行ってるんです
かあ……？」

「あのお？
もしもし……？」



「きゃっ!!
いやん!!
何するのっ!!?
誰か……!!」

「え、えらい
こつちや
やでえ……!!」



「……と言うワケで
ごやいます
ライラ様」

「ええ
ご苦労様」

「罎に掛かつた
馬鹿な天使を
もてなして
差し上げましょう」

「うふふ……」

「天使にこの様な真似
神の裁きが下りますよ!」

「うふふ
強がっちゃって」

「ワイが助けを
連れて来るまで
耐えるんやで!」

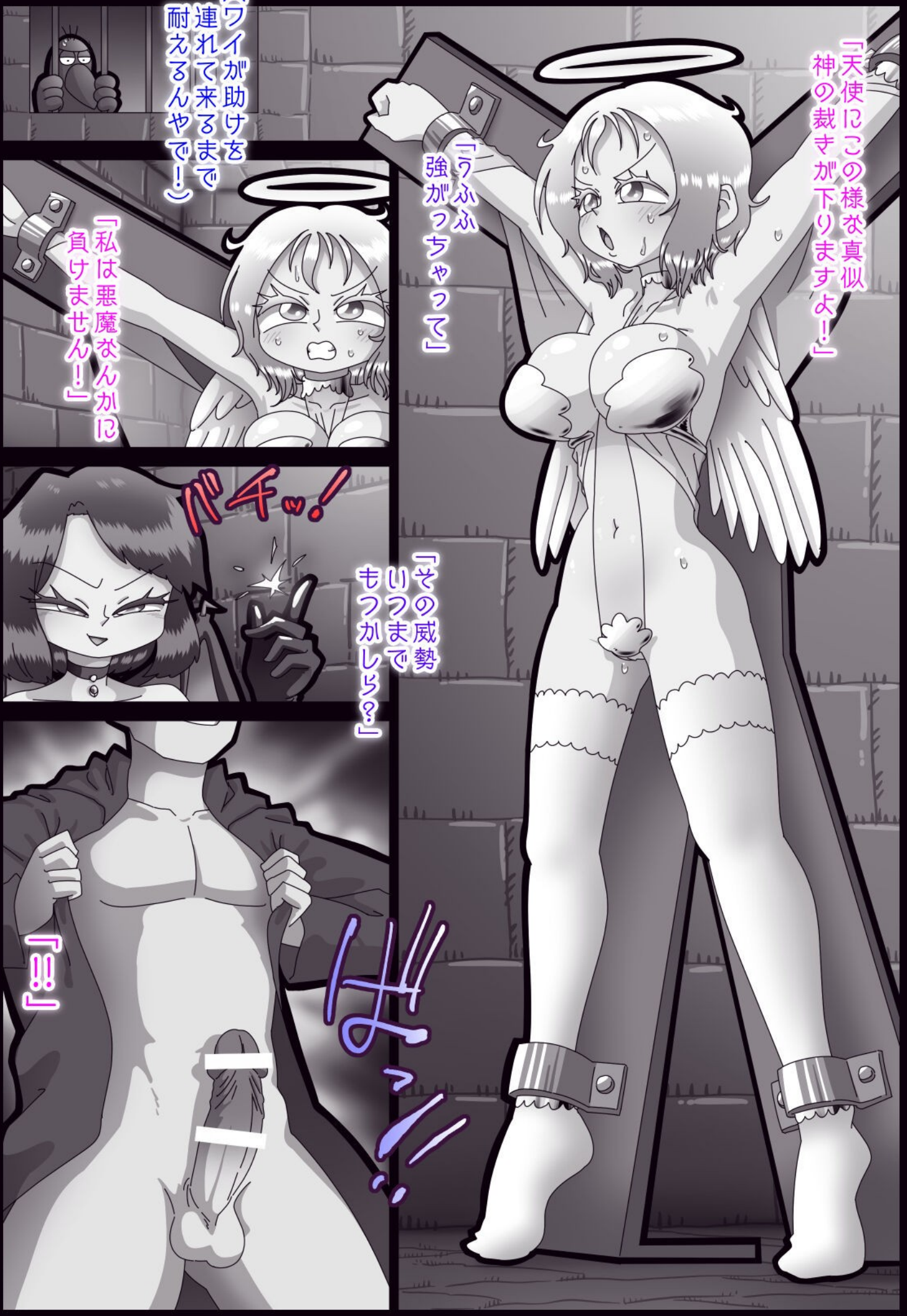
「私は悪魔なんかは
負けません!」

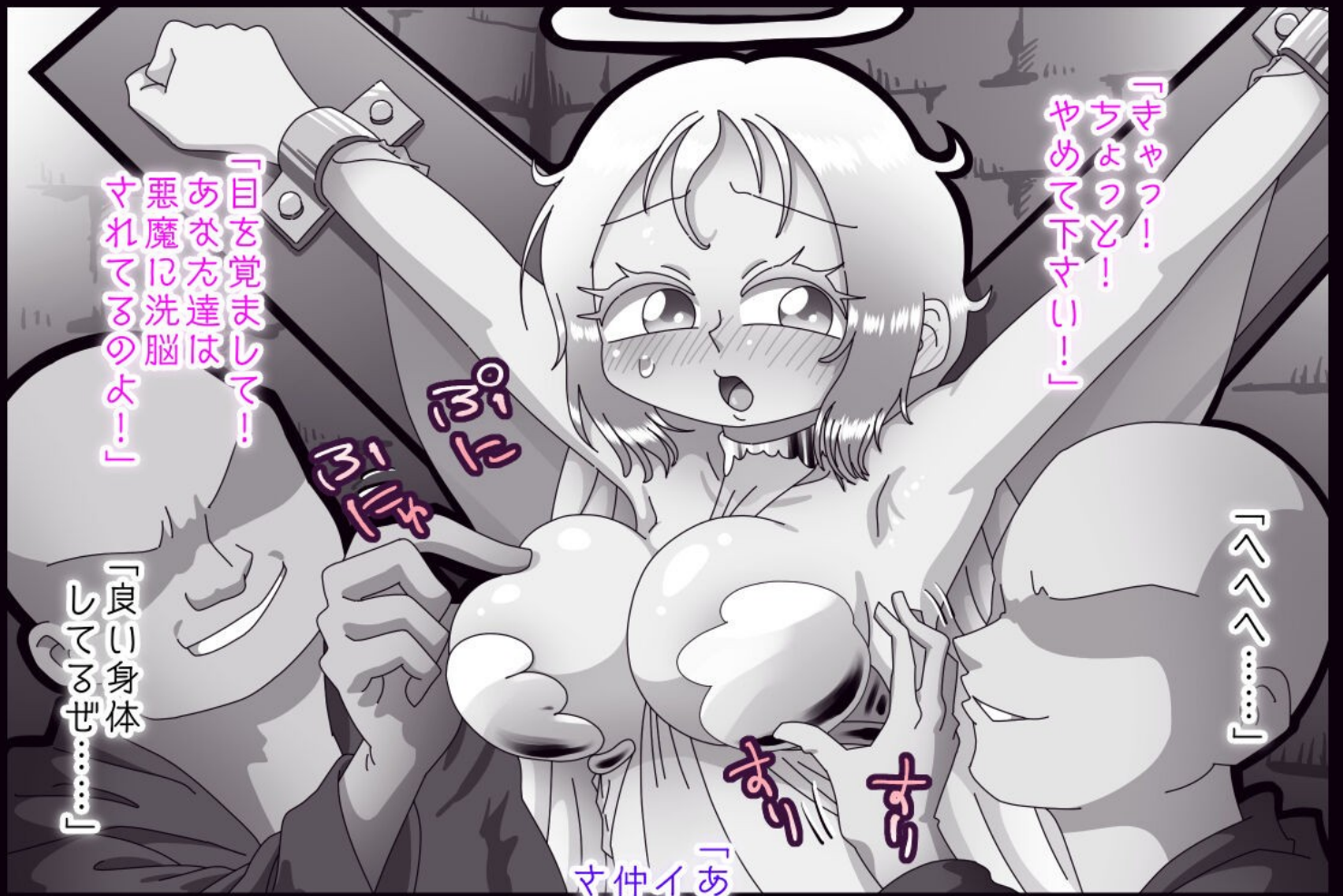
「その威勢
いつまで
もつかしら?」

バチッ!

ヒッ!

!!!





「きゃっ!
ちよつと!
やめて下さい!」

「目を覚まして!
あなを達は
悪魔に洗脳
されてるのよ!」

「良い身体
してるぜ……」

「……」

「あなをを
イかせまくって
仲間になり方く
らせてあげる♡」



「あんっ!」

どら!

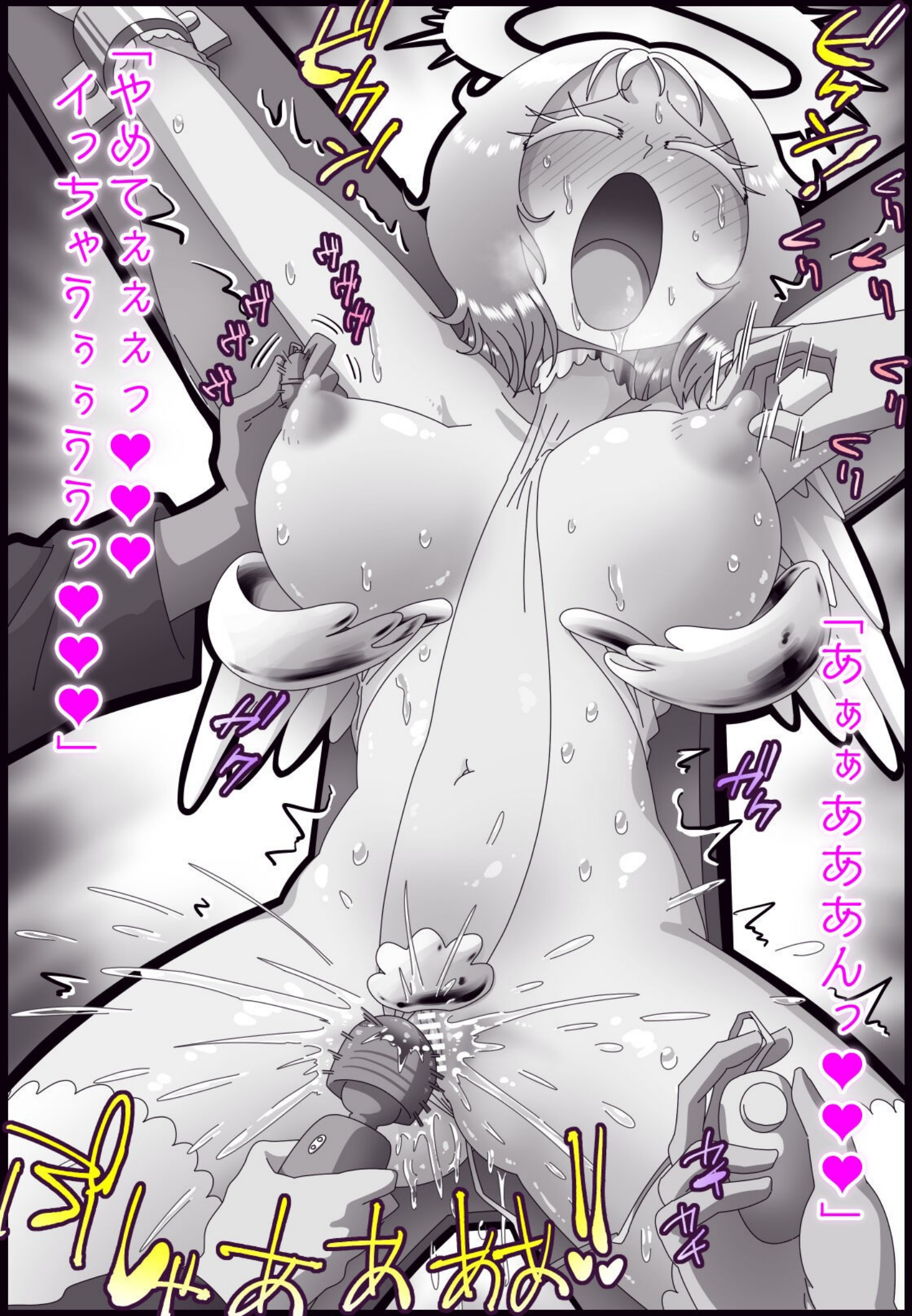
ぽるん

たっ

「だ
る
誰が仲間に
すか!」

「悪魔が何をしても
私は絶対に
イッ方りしません!!」

きりっ!



「やめてえええっ♡♡♡♡♡
イっちやうううううっ♡♡♡♡♡」

ドクドク

ドクドク
ウー
ウー
ウー
ウー
ウー

チオオオ

ハッ

ハッ

「あぁあぁあぁあぁんっ♡♡♡♡♡」

♡♡♡♡♡

「あぁあぁあぁあぁ!!♡♡♡♡♡」

チオオオ

「あつ♥ あんつ♥
いやんっ♥ いやんっ♥
いやんっ♥

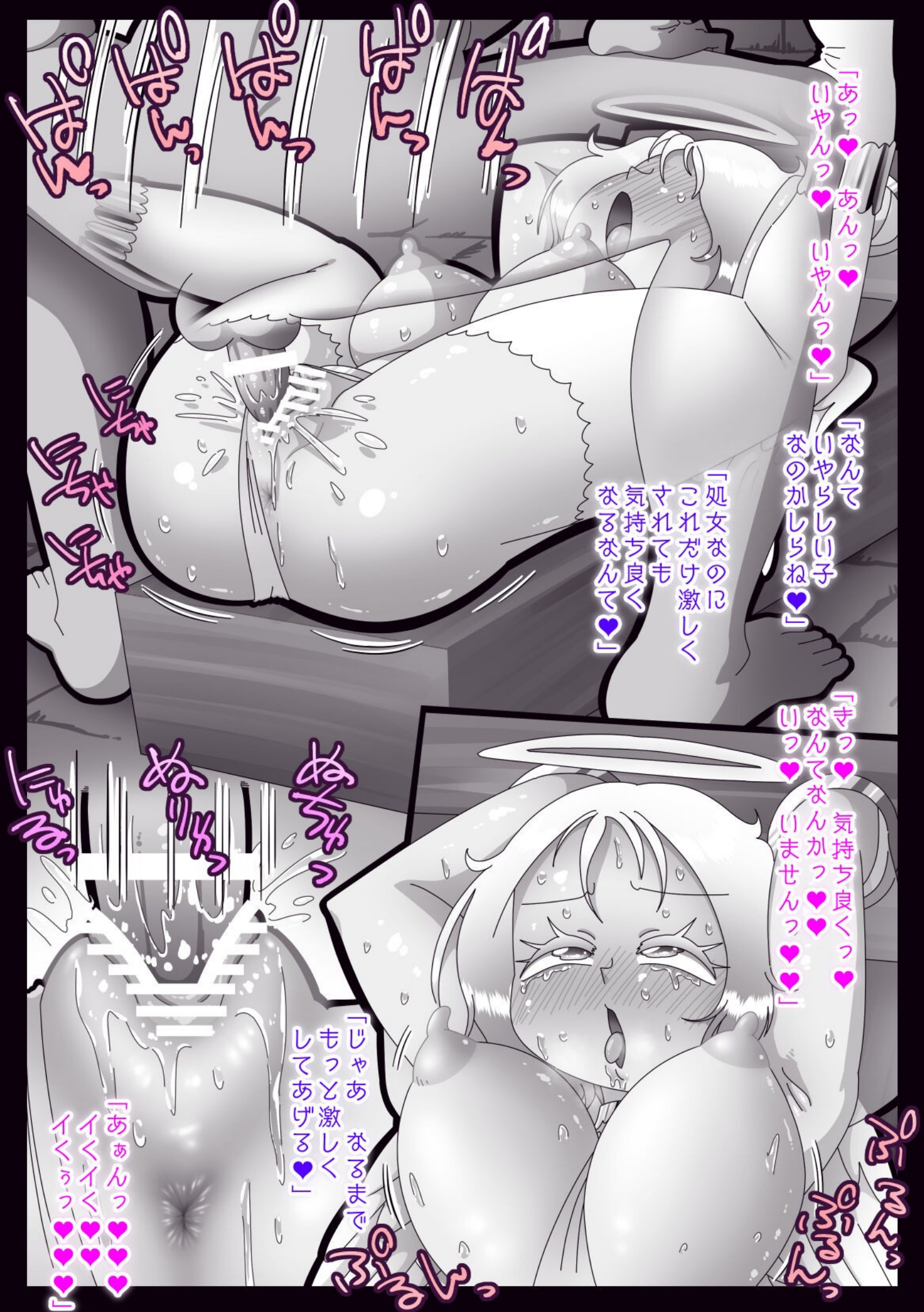
「なんて
いやらしい子
なのかしらね♥」

「処女なのに
これだけ激しく
サレても
気持ち良く
なるなんて♥」

「きつ♥
なんて♥
気持ち良くっ♥
なんかっ♥
いませんっ♥
いませんっ♥
いませんっ♥

「じゃあ なるまで
もっと激しく
してあげる♥」

「ああんっ♥
イクイク♥
イクイク♥
イクイク♥
イクイク♥





「イッシャヤにっ♡♡♡」

びんびん!!

びんびん!!
びんびん!!
びんびん!!

おまおま

「神しやまあ♡♡♡
ごめんしやい♡♡♡」

んん

んん!!



ぬるん、
はあ、
はあ、

「気持ち良くて……
おかしくなっちゃう♡」

「ああんっ♡
いやんっ♡
ああんっ♡
いやあんっ♡」

びしょ、
はあ、
はあ、
はあ、

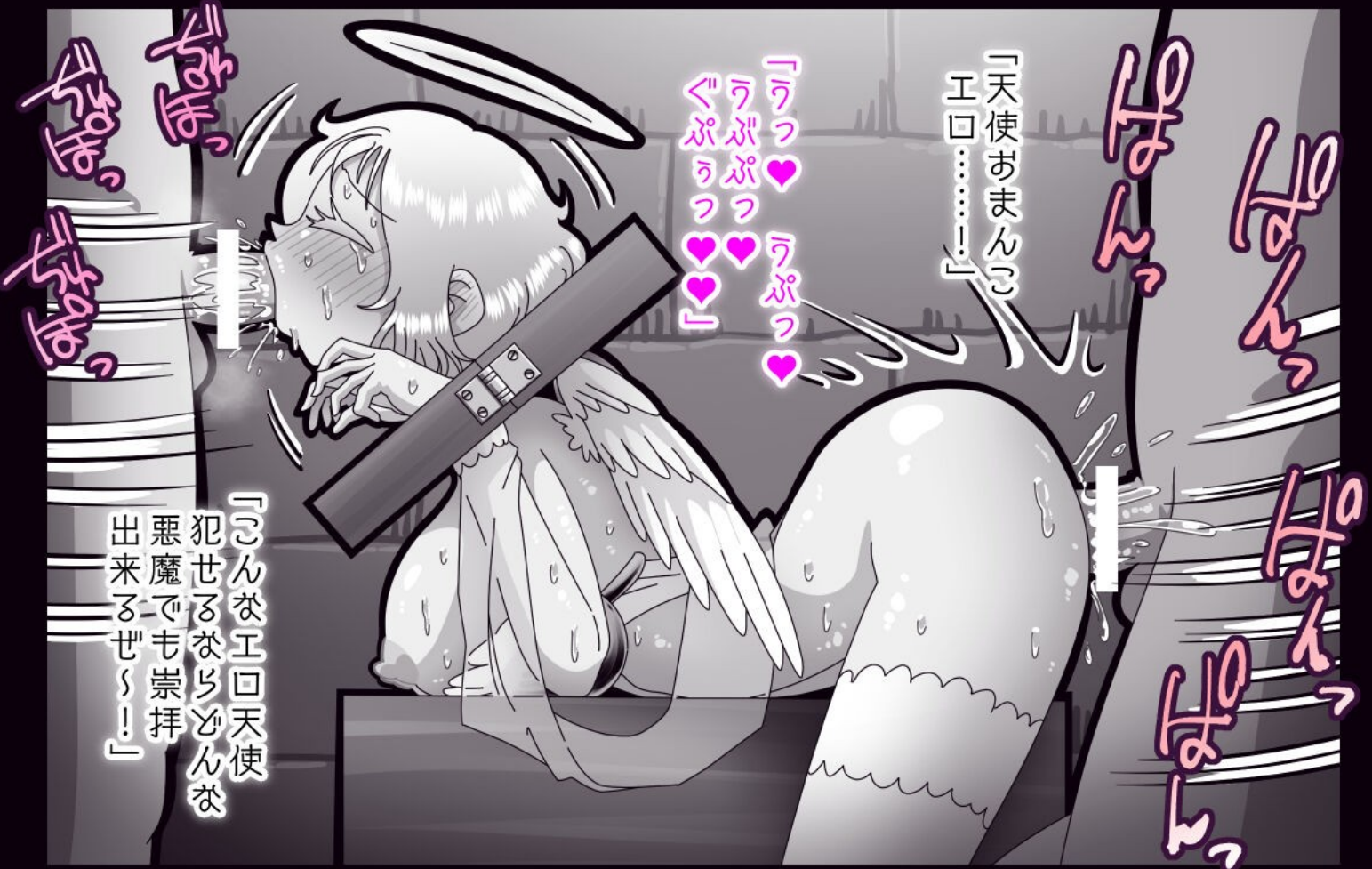


「どあ？
私の仲間に
なりたくならない？」

「はあ♡ はあ♡
だ誰が仲間に
なるもんですか……」

「あらそう
じゃあもっ
と楽しんで
あげて♡」

「あう……
ここれ以上は
本当に壊れ
ちゃうよあ……」



「天使おまんこ
エロ……!」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「こんなエロ天使
犯せるならおんな
悪魔でも崇拜
出来るぜ!」



「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「ザーメンの味、
しつかり憶えろ!」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」



「おりゃあ!
天使に種付けだ!」

「んむっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「うっ♡
うぶぶっ♡
ぐぶうっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡
うぶっ♡」

「中々しぶとい
わねえ……」

「はぁ♡ はぁ♡
あ♡当方り前ですっ♡
神に仕える者は
これしきの事で
くじけたりしませんっ♡」

「……のワリには
楽しんでやってる
みちいじやない♡」

「までも流石に
コレは耐えられる
かしら……？」

「えっ!?!
まっまっかっ
それを……」

どろろ
どろろ

#7

#7

#7

#7

「まあ天使ちゃん
私と楽しみ
ましよう……♡」

「……け……
汚らわしい！」

「うふふ♡
その威勢がいつまで
保つかしらね♡」

「えっ!？」

「女の子の身体に
おちんちん!？」

「うふふふふ♡
悪魔の力は
何でもアリなの♡」

「あ
そあ
そあ
そあ……」

「おっ♡おっ♡
んおおおっ♡♡♡」

「どう？
女の子に犯される
気持ちは……？」

「ここが気持ち良いのか
私には全部わかるのよ♡」

「Innocence」

ぬぢゅぢゅ

ぬぢゅぢゅ

ぬぢゅぢゅ

「あっ あがっ
あぐっ……」

ぬぢゅぢゅ

「ホラホラ！
言いなさい！
ここが気持ち
良いんでしょ!？」

「あぁっ！
だ 駄目っ！」

ぬぢゅぢゅ

ぬぢゅぢゅ

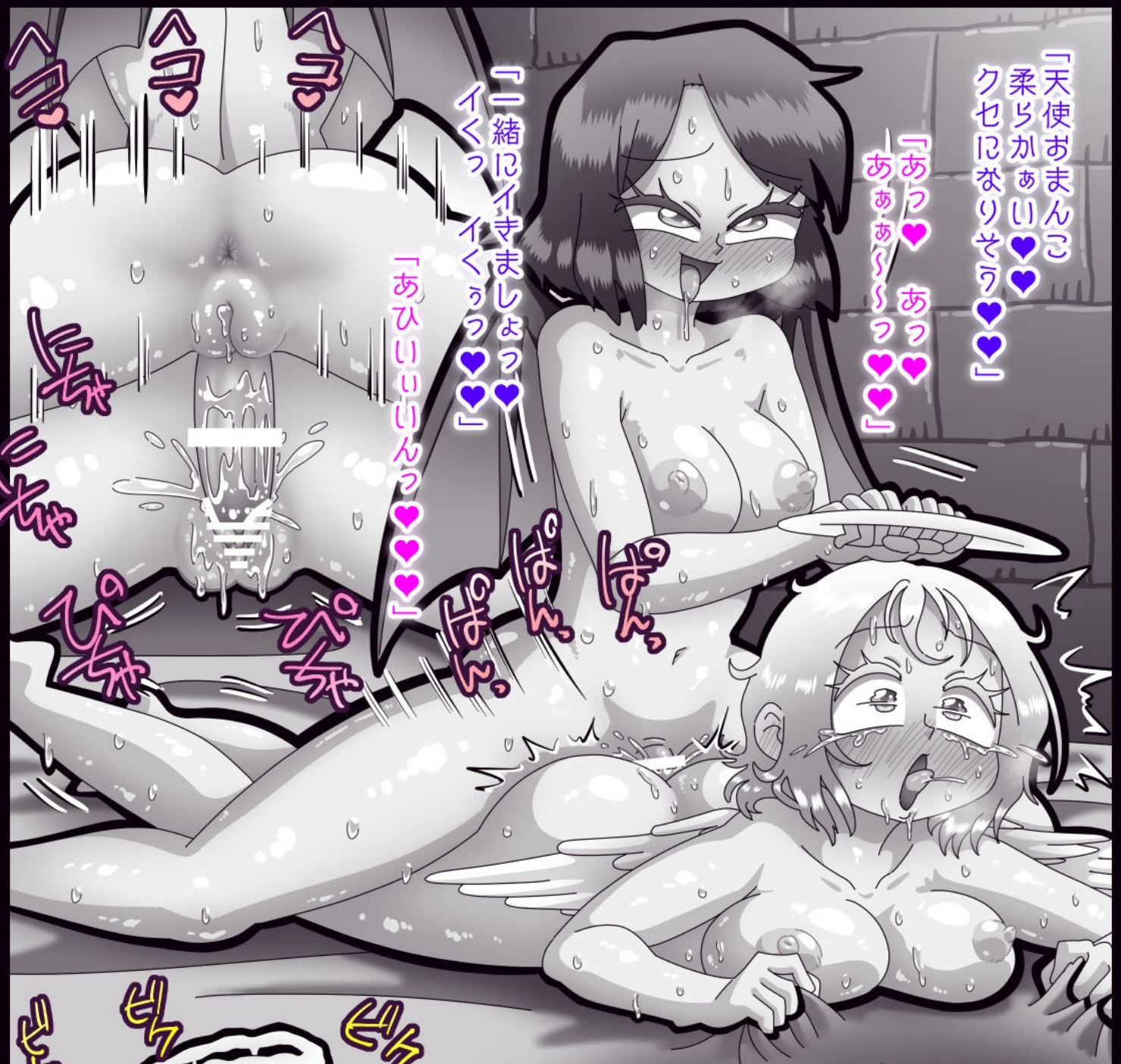
「こうやって首を
締められると
キュンキュン
しちゃうん
でしよう!？」

「天使おまんこ
柔らかあい♡♡
クセになりそう♡♡」

「あっ♡ あっ♡
あぁあゝゝっ♡♡♡♡

「一緒にイキましょ♡♡
イクっ♡ イクっ♡♡」

「あひいいいんっ♡♡♡♡」



「精液ぷりぷり
でりゅううっ♡♡」

「あめ!!」

「んおおっ♡♡
子宮パンパンに
なりゅううっ♡♡」

「はっ♡♡
はっ♡♡」



「すっかりトロトロね♡
おまんこがちゅうちゅう
吸い付いて気持ち良いわ♡」

「ああん♡ ああん♡
いやあん♡ ああん♡
もおいくのいやあん♡」

ぬちゃ
ぬちゃ

トキ
トキ

「はー♡ はー♡
何度充つて射精
できちゃう……♡」

「ああ……♡
びゅーびゅーしてりゅ……♡」

「はあ♡ はあ♡
イクの止まらない……♡」

「うふふ……♡
もうあな方は
私の物よ……♡」

「うふふふ……♡」

「私は……♡
私は……♡」

オ
オ

オ
オ

ワ
ワ
ワ
ワ

ど
ど

ど
ど

ビ
ビ

ビ
ビ

「私は……
あな方の物です……♡」

「悪魔の赤ちゃん
産みます……♡」

「うふふ ♡
そうね
こんなんにお腹が
大きくなって
来たんぢもの」

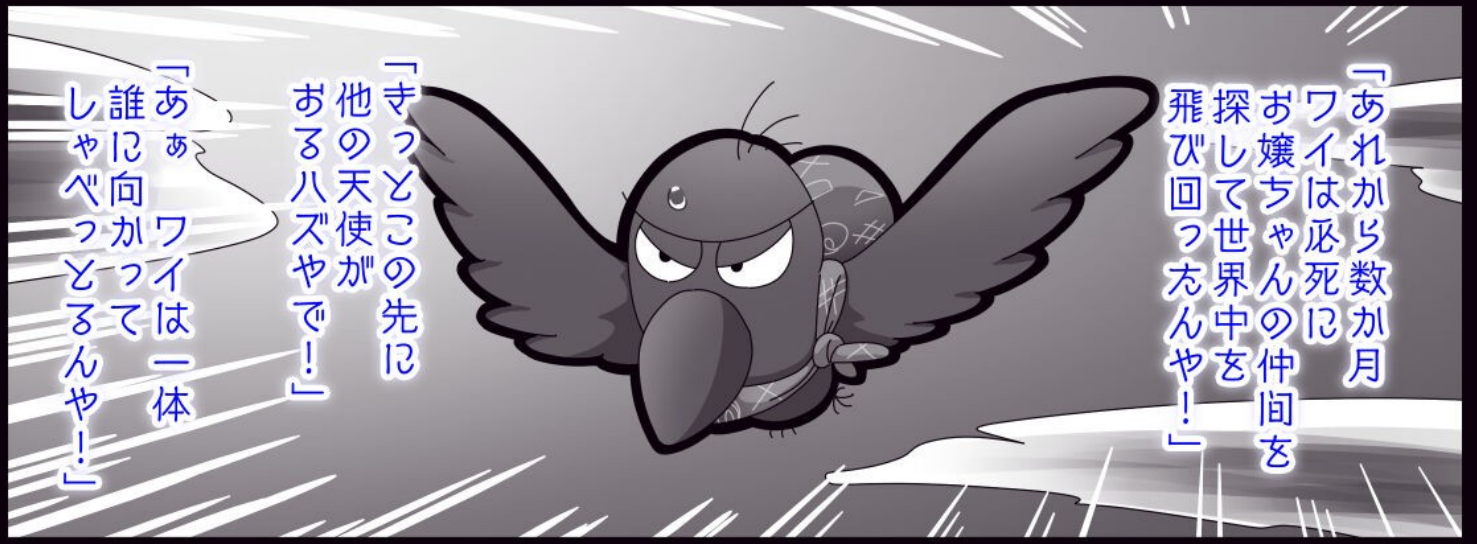
「あともう少しで
あな方は悪魔の子を
産むのよ……♡
うふふ ♡」

ママ

ス
ス

とろろ





「あれから数か月
ワイは必死に
お嬢ちゃんの間を
探して世界中を
飛び回ったんや！」

「きつとこの先に
他の天使が
おるハズやで！」

「ああワイは一体
誰に向かって
しゃべってるんや！」



「なっ!
なんだっ!
悪魔共が
そんな事を!？」

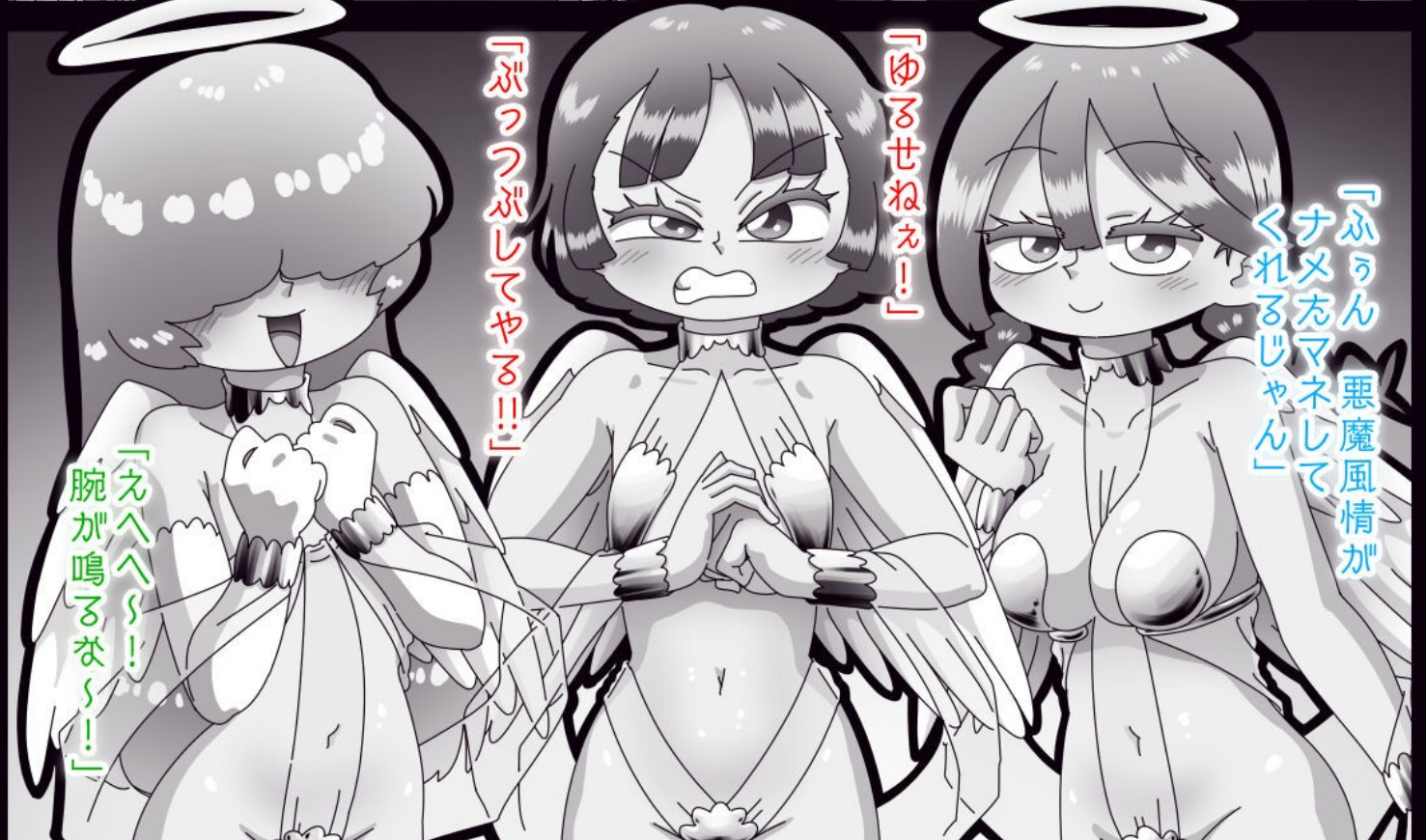
「ど言うワケ
まんや！」



「あつちで
見ろな！」

「んー 天使か!？」

「ホンマか！」



「ふうん 悪魔風情が
ナメたマネして
くれるじゃん」

「ゆるせねえ！」

「ぶっつぶしてやる!!!」

「えへへ!!
腕が鳴るな!!」

「おっ♥ おおっ♥
まろ中出しっ♥」

「もう妊娠
しちゃいましゅっ♥」

「は〜は〜
は〜は〜♥
悪魔ちんぽで
墮天すりゅっ♥」

「皆仲良く私を
崇めるのよ♥」

びゅんっ

「イぐっ♥
イぐっ♥
イぐっ♥
うっ♥」

ぼんっ!

ぼんっ!

(あかん!
コイツは
弱すぎや!)

(も〜面倒
みきれんで
ホンマに!)

「ははい……
ライラ様……♥」

おしまい♥

ちゅんっ!